

厚生労働省委託事業

令和元年度がん総合相談に携わる者に対する研修事業

事業報告書

一般社団法人 日本サイコオンコロジー学会

令和2(2020)年3月

事業報告書 目次

I. わが国のがん医療においてピアサポートを広く推進するための提言	2
II. 全体報告	(小川 朝生) …4
III. ピア養成研修ワーキンググループ報告	(秋月 伸哉) …15
IV. 短期サポートワーキンググループ報告	(平井 啓) …17
IV. 都道府県への支援	19
V. 資料	
1. 意見交換会、医療従事者向け研修会 資料	30
2. 委員会名簿	67

わが国のがん医療においてピア・サポートを広く推進するための提言

ピア・サポートに関する現状調査並びにモデル研修の実施、各都道府県との意見交換で得た知見をもとに、がん医療においてピア・サポートを推進し、がん患者・家族が安心して暮らせる地域共生社会を実現するために以下を提言する。

国のがん対策に関して

- ・全国のがん診療連携拠点病院等においてピア・サポートがあまねく提供されるために、国はピア・サポートに関する改訂された研修プログラム等の普及を図るとともに、それに基づくピア・サポーターの養成、研修修了者の活用、地域統括相談支援センターの活用に向けた支援を継続する必要がある。
- ・国は、地域におけるピア・サポートの活用を推進するため、地域統括相談支援センターの機能を見直し、再整備することが望まれる。
- ・国はがん診療連携拠点病院等の整備に関する指針において、拠点病院内での患者家族支援の基盤の一つとしてピア・サポートを活用したセルフヘルプグループやサポートグループ等の配置を明確にするなど、推進に向けた取組みが重要である。
- ・国は「がん患者にとって、同じような経験を持つ者による相談支援や情報提供及び患者同士の体験共有ができる場の存在は重要（がん対策推進基本計画）」であることが行政や医療機関、市民に十分に認識されていないことを踏まえ、ピア・サポートに関する啓発を強化する必要がある。

都道府県の取組みに関して

- ・各都道府県は、がん診療連携拠点病院等においてピア・サポートの活動を推進するために、改訂した研修プログラムに沿った研修を実施しピア・サポーターを養成すると共に、継続的な研修を行う教育体制や研修修了者を活用するマネジメント体制をもつ必要がある。体制の実現に際しては、ピア・サポートの教育研修やマネジメントを担当する専属の者を置くことが望ましい。健康対策推進事業にある地域統括相談支援センターの活用が一つの解決策になりうる。
- ・各都道府県は、がん診療連携拠点病院以外で開催されているピア・サポートに関する情報を収集し、ポータルサイト等を通じて発信するなど、がん患者・家族が希望する支援にたどり着けるよう取り組むことが重要である。
- ・ピア・サポートの運用には行政と医療機関との密な連携が欠かせない。各都道府県では、都道府県がん診療連携協議会のもとに、ピア・サポートの養成や継続研修、活用を担当する部会を明確にし、目標を定め、進捗を評価して継続的に改善を進めることが重要である。一般

的には内容の関連する相談支援部会や緩和ケア部会が所掌することがなじみやすい。

がん診療連携拠点病院の取組みに関して

- ・がん診療連携拠点病院等は、施設内においてピア・サポートを推進する部署・担当者を明確に定める必要がある。特に、ピア・サポートとの連携が期待されるがん相談支援センターに対して支援を強化することが望まれる。
- ・がん診療連携拠点病院等は、がんサロンにおいて、改訂された研修プログラムの修了者をしたグループ活動（セルフヘルプグループ、サポートグループ）を実施するなど、積極的な活用を進めることが重要である。

教育研修体制に関して

- ・国や都道府県は、ピア・サポートの普及・質の担保を図るために、研修プログラムのトレーナー・ファシリテーターの育成、継続研修に関する基本的なプログラムの整備等を進めることが重要である。
- ・教育・研修を進めるために、国や都道府県、関連学会、患者団体等は、がん治療や精神心理的支援、相談支援に携わる医療従事者と連携し、県や地方ブロック単位で支援体制を構築し、人材育成を図ることが望まれる。
- ・医療機関外で行われるピア・サポートにおいても、ピア・サポートに関して認識を共有するために、市民教育が望まれる。
- ・第三期がん対策推進基本計画において個別目標に掲げられている通り、ピア・サポートの「効果検証」についても検討することが望まれる

「がん総合相談に携わる者に対する研修事業」報告

総括

改訂委員会 小川 朝生

A. 目的

ピア・サポートは、がんを含めた慢性疾患に対する基本的な心理社会的な支援の一形式である。

わが国のがん対策においては、平成 23-25 年度に、公益財団法人日本対がん協会が厚生労働省委託事業「がん総合相談に携わる者に対する研修プログラム策定事業」を受託し、ピア・サポートに必要な基本的なスキルを身につけるための研修プログラムを策定し、説明会の開催やホームページ等によりその周知を図った経緯がある。

しかし、平成 28 年 9 月に総務省が公開した「がん対策に関する行政評価・監視結果報告書」では、平成 27 年度のピア・サポート研修の実施状況ならびに活動状況を 17 都道府県、51 がん診療連携拠点病院を対象に調査をしたところ、都道府県等においてピア・サポート研修が実施されていない状況や、拠点病院における相談支援や患者サロンへのピア・サポーターの受け入れが十分に進んでいない状況を確認した。

この報告を受けて、がん対策推進基本計画（第 3 期）では、ピア・サポートについて、国が作成した研修プログラムの活用状況に係る実態調査を行い、ピア・サポートが普及しない原因を分析し、研修内容の見直しやピア・サポートの普及を図ることが盛り込まれた。

本事業では、上記計画を受けて、平成 30 年度より実施している。令和元年度には、昨年に続いて実施要綱に従い、

- ① 医療関係者、カウンセラーなどの有識者やがん患者団体等の当事者による「研修プログラム改訂委員会」を設置し、前年度改訂したプログラムを使用した研修を実施し、プログラム等の改善を行う
- ② 全国での研修の実施の可能性及び地域での取組みの持続の可能性等の検証を行う。
- ③ 委員会において検討された内容に基づく教材等を活用し、地域統括相談支援

センターや患者サロン等に協力するピア・サポーター等に対して研修等を実施する

- ④ 情報提供、研修の周知や参加申し込み、必要資料の提供等を行うホームページを運用することを検討した。

B. 経過

改訂委員会を設置し、課題整理を行い、以下の 4 点を検討・実施した。

1. 前年度に改訂した研修プログラムを使用した研修を実施し、プログラム等の改善を行う。
2. 行政・医療機関に向けた心理社会的支援に関する情報提供資料の開発
3. 全国でのピア・サポートの研修の実施の可能性、取組みの持続の可能性等の検証
4. 情報提供等を行うホームページの運用

1. 研修プログラムを使用した研修の実施、プログラムの改善

前年度に改訂した研修プログラムを使用した研修を実施するとともに、施行による明らかとなった不具合の修正を行い、プログラムの正式版を完成させた。あわせて、研修プログラムを円滑に開催することを目的に、運用マニュアルの作成を行った。

改訂した研修プログラムは、都道府県が、行政職員・医療従事者とピア・サポーターを対象に開催することを想定している。昨年度に研修プログラムを試行した際には、日本サイコオンコロジー学会主催の開催であった。そのため、本年度は想定していた設定で本研修プログラムを運用し、プログラムが運用できるかどうかを含め検討した。

事前に昨年度の試行で出された検討点を踏まえ、プログラムの修正を加えた後、三重県と協力し 2020 年 2 月 9 日・16 日の二日間、津市において研修会を開催した。研修会では、県内の行政・医療従事者 10 名、ピア・サポーター 20 名の参加があった。また、計 5 県から研修プログラムの見学があった。

研修プログラムの実施にあたり、大きな問題はなかったが、以下の改善点・検討点がリストアップされた。

- ・テキストの章立てと講義の順番を揃える
- ・ロールプレイのファシリテートの内容が、ファシリテーターにより異なる

上記の点に対して、研修テキストならびにプログラム用の資料（スライド）を修正し、正式版としてリリースした。

また、研修会を円滑に開催することを目的に、研修会を開催する上での要領をまとめた運営マニュアルの作成を進め、合わせて公開した。

2. 行政・医療機関に向けた心理社会的支援に関する情報提供資料の開発

ピア・サポートの受け入れが進まない理由の一つに、行政や医療機関におけるピア・サポートへの認識が途上の点がある。その背景には、がん患者・家族に対する心理社会的支援に関する情報不足があることから、行政・医療機関を対象に、基本的な心理社会的支援であるサポートプログラムに関する情報提供資料の開発を進めた。

3. 全国でのピア・サポートの研修の実施の可能性、取組みの持続の可能性等の検証

昨年度に都道府県を対象とした研修プログラムの活用状況にかかる調査を踏まえ、各地域で研修を実施しやすい仕組みの構築を目指し、ピア・サポーター等の研修について都道府県の取り組みに対する意見交換や講師の紹介、研修プログラム並びに研修テキスト等の提供を行った。

2020年6月に厚生労働省より各都道府県担当部署に対して案内を送付した後に、希望した都道府県と個別に支援内容を調整した。

計22県から希望を受け、2県に対しては、医療従事者向け研修会の開催に協力し講師を派遣した。6県に対しては、研修テキスト並びにDVDの送付を行った。

15県に対して改訂委員会委員が出向き、都道府県担当者や医療従事者と直接各県の取組みの現状ならびに課題に関する意見交換を行った（【表1】【表2-1~5】参照）。

4. 情報提供等を行うホームページの運用

昨年度に引き続き、情報提供や研修の周知を行うホームページを運用し、研修テキスト

等の公開や委員会活動の紹介を行った。

- ・「ピアサポーター養成テキスト 2018年度暫定版」PDFのアップロード（2019年9月）
- ・2019年2月に行ったトライアル研修会で使用したスライド（PDF）、プログラムの公開（2019年9月）
- ・改訂委員会議事録の公開
- ・各会議、意見交換会、研修会等様子の紹介
- ・各種問い合わせの対応

C. 考察

昨年度の研修プログラムの利活用調査に引き続き、本年度は都道府県に対して、ピアサポートと養成テキストに関する情報提供と、都道府県のニーズに応じた支援を提供した。

最終的に15都道府県から要請を受け、改訂委員会委員が出向き、都道府県担当者や医療従事者と直接各県の取組みの現状ならびに課題に関する意見交換を行った。その結果、要請のあった都道府県からの情報という限界があるが、従前のアンケート調査では踏み込めていなかった普及を阻む要因を明確にするとともに、その対策に関する好事例について収集することができた。

改訂委員会では、各都道府県との意見交換や個別の支援、モデル研修の開催をもとに、ピアサポートを今後がん診療連携拠点病院等で推進するうえでの課題とその解決策について検討した。

1 都道府県がん対策推進基本計画への明確な記載の必要性

今回出向いた15県のうち、県のがん対策推進基本計画にピア・サポートに関する項目をあげていた県は15県あり、数値目標を設定していた県は5県であった。記載されている内容は県により幅がある。

基本計画の策定に関して、意見交換の中では、県内で患者の声をまとめる核となる団体がない場合に、計画に挙げたとしても具体策を提案することが難しいことから、行政として推進しにくいとの意見があった。基本計画の記載内容に幅がある背景には、ピア・サポートに関する意見が集約されにくいことやピア・サポートに関するニーズが把握されていないことが考えられる。

2 行政と医療従事者との検討

2.1 県において検討の場を設置する必要性

意見交換のなかで、がん対策推進協議会やその下に設置した部会で、ピア・サポートについて検討する枠組みをもっている県は少なく、部会で定期的に検討を行っていたのは15県のうち1県に留まっていた。

協議会や部会で検討の場が設けられなかった理由に関しては、行政・医療機関ともにピア・サポートがどのようなものか、イメージがつかないために具体的な検討に至らなかったことや、がん対策推進基本計画での記載が漠然としているために、どこが扱う領域なのか行政がつかめなかったことがあげられる。特に、ピア・サポートはがんサロン等がん診療連携拠点病院内で活動することが想定されており、その教育・研修にあたり行政と医療従事者とが協働して進める必要がある。しかし実際には、

- ①医療従事者と検討する必要性を感じていなかった（患者団体の活動ととらえ、医療者を含めたトレーニングの必要性を知らなかった）
 - ②医療者側からの要請がなかった（拠点病院の要件にないので、医療者側がピア・サポートを知らなかったから）
- の指摘があった。

ピア・サポーターが活動をするうえで、相手を傷つけず、また自らの傷つきを防ぐためにも、精神心理的支援に関する基本的な知識を予め身につけておくことが重要になる。特に医療機関と連携してピアサポート活動をする場合には、医療に関する問題には踏み込まないことや個人情報扱い、自殺の危険性などの緊急時の対応等についても確認する必要がある。教育・研修は必須である。

今後、ピア・サポートを全国で推進するにあたり、県において、行政と医療従事者が計画を策定し、その進捗を議論する場を確保することがまず求められる。

2.2 相談支援部会のがんサロンにおいて取り上げる必要性

がん診療連携拠点病院の整備指針においては、相談支援センターの役割にサポートグループの支援が盛り込まれている。がん診療連携拠点病院では、がんサロンは「体験を語り合う場」とも記載され、情緒的サポートと情報提供を主とするピア・サポートが含まれる。しかし、がん診療連携拠点病院側で、ピ

ア・サポートに関して相談員との誤解があることやピア・サポートが体験を語る役割を担っていることが知られていないため、がんサロンでの活動に至っていないと考えられる。特に誤解の背景には、がん対策推進基本計画において、「同じような経験を持つ者による相談支援や情報提供及び患者同士の体験共有ができる場の重要性」などの記述があり、支援者とピア・サポーターを混同して解釈されている可能性がある。

今後、がん診療連携拠点病院等の医療従事者に対して、ピア・サポートの役割や活用について研修等を通じて啓発する必要がある。

2.3 市民への啓発の必要性

ピア・サポートに関して認識が十分に進んでいないことをうかがうものとして、市民がピア・サポートを職業ととらえているとの意見もあった。ピア・サポートに関する検討を進める上で、市民に対しても情報提供や啓発が求められる。

3 マネジメントについて

3.1 マネジメントの体制作りの必要性

意見交換のなかで、検討の場が設置されていないこととあわせて、ピア・サポートの養成が継続していないことやその後のマネジメント体制をどのように作って良いか分からないとのコメントがあった。実際に、養成研修を継続している県は7県、フォローアップを行っている県が6県に留まり、かつ質の担保を目的としてコアコンピテンシーを定め、ロールプレイ等を計画的に取り入れている県は1県に留まっていた。

ピア・サポートは、主たる役割が自らの体験を語ることを通して、情緒的なサポートや情報を提供する点にある。そのことから、ピア・サポートに参加するにあたりまず求められることは、秘密の保持等最低限に留まる。ピア・サポートに主体的に携わる場合には、養成を終えたうえでの継続的な研修が重要である。

その特性を踏まえると、都道府県の活動が養成に留まり、以降のフォローアップや登録制度、運営が実施されていないことは、質を担保するうえで課題である。体制が意識されていない背景には、ピア・サポートに関する行政・医療従事者の情報不足が考えられることから、今後各県においてピア・サポートのマネジメント体制に関する情報提供や構築す

る上での専門的な助言等の支援を提供する必要がある。

また、マネジメントの体制を構築するのが難しい背景に、予算の問題を指摘する意見もあった。予算に関しては、健康対策推進事業にある地域統括相談支援センターを活用している県が複数あった。地域統括相談支援センターはその県のニーズに応じて柔軟に設置・運用ができる枠組みであることから、ピア・サポートのマネジメント体制を担う一つの解決策になりうる。

3.2 継続した養成の必要性

意見交換の中で、複数の県より予算の問題で養成研修を継続しての実施が難しいことやピア・サポーターを養成しても継続して活動する者が少ないとの意見があった。

ピア・サポーターの活動に関しては、治療中やサバイバーでも体調が安定しない場合が多いこと、全体的に年齢が高く体力的な限界もあることから、海外でも継続して活動できる人をいかに確保するかが課題としてあがっている。加えて、がんのピア・サポートの場合、治療を終えてから年限が経つと、がん治療の内容自体が大きく変わることから、海外では体験を共有するうえでもピアとしての活動の上限を設定しているところもある。

各地域のがん診療連携拠点病院で安定してピア・サポート活動を行うためには、計画的に養成をおこない、活動できるピア・サポーターを一定程度確保する必要がある。その点でも、県や地方ブロック単位で、マネジメントを行う体制作りは重要である。

3.3 多様性確保の必要性

ピア・サポートやがんサロンの運用に関する意見交換のなかで、がんサロンのメンバーが固定化し新たに体験者が加わることへの障壁になる課題やニーズのミスマッチ（語り合う場を求めるニーズと治療に関する情報を求めるニーズが合わずに参加が続かない）、世代間特に AYA 世代のニーズに対応できない（サポーターが高齢者で話題が合わなかったり、話しにくい）などの運用上の課題もあがった。

ピア・サポートは、基本的な心理社会的支援を提供する場であることから、ニーズに応じて多様な活動の形態（セルフヘルプグループやサポートグループなどの構成上の違い、対面式や SNS を用いたネット上の活動など

の場所の違い）がある。一般には、一施設内でも疾病の部位や病期、年代、社会的背景により異なるニーズに応じて複数のピア・サポートが提供される必要がある。その点でも、多様なピア・サポーターを養成し、ニーズに応じたマッチングが可能な体制を構築することが望まれる。また、がん診療連携拠点病院外にも NPO 等が多様なサポートプログラムを提供している。県が県内のサポートプログラムを把握し、希望する患者・家族がニーズに応じた支援プログラムにたどりつけるよう情報の収集・公開することもマッチングに資する。

3.4 研修の質の確保の必要性

養成を実施している県との間では、改訂した研修テキストの紹介を行うと同時に、現在実施している研修内容についても意見交換を行った。

過去に開催された研修の中には、ピア・サポートに関する重要事項の確認が入ることは少なかった。その背景には、県が研修を外部に委託することが多く、委託先が独自に研修内容を決定していることがある。

今回改訂した研修プログラムでは、海外を含めピア・サポート活動をする上で基本となる必要最低限の事項を含めている。研修内容の適切性を確保するうえでも、改訂された研修プログラムの普及を図り、積極的な活用を働きかけていく必要がある。

4 行政とがん診療連携拠点病院との連携

行政と医療従事者との間でピア・サポートに関する検討の場が少ないことと併せて、がん診療連携拠点病院におけるがんサロンの活動について、県内で情報共有の機会が少ないとの意見もあがった。実際に、いくつかの県では、ピア・サポーターの養成とがん診療連携拠点病院のがんサロンの活動が連携しておらず、養成したピア・サポーターが活用されていないとの指摘もあった。

がん診療連携拠点病院の整備指針には、「体験を語り合う場」の設置が義務づけられている。「体験を語り合う場」については、その検討の経緯を踏まえればセルフヘルプグループやサポートグループを想定していると推測できる一方、その解釈の余地を残していることから患者向けイベントとしてとらえられるなど、本来の主旨が十分に周知されていない現状がある。実際に、患者会の打ち合せに

会場を貸すことでがん診療連携拠点病院の整備指針が満たされているとして、ピア・サポートの受け入れが進まないとの指摘があった。また、ピア・サポートは相談であり、がんサロンとは異なるなど、支援者とピア・サポーターの混同を指摘する意見もあった。

今後、行政と医療従事者との検討の場を確保するのと併せて、がん診療連携拠点病院における心理社会的支援の整備の方向性を明確にし、適切な支援体制を確保する取組みも求められる。

5 教育・研修体制整備について

ピア・サポートの養成を進める上で、各県で講師の確保が難しいことや、ファシリテーターができるピアや医療従事者が少ないことも課題にあがった。

今後研修プログラムの普及を図るにあたり、講師やファシリテーター等のトレーナーを育成・確保する必要がある。本事業では、モデル研修の他、県内の医療従事者向け研修

会への講師派遣等を行った。現在の所、各県内でトレーナーを確保することは難しい。今後、国や学術団体、患者団体が連携して、少なくとも地方ブロック単位でトレーナーを確保し、各県での研修や体制作りが円滑に進むよう支援体制を整える必要がある。

また、研修プログラムに関しても、研修機会を確保するための対応も求められる。多くの場合、県内で集合研修を開催する必要がある。しかし、離島のために容易に出向くことができない、高齢や病状等の身体的な問題のために長距離の移動が難しいことから、ピアサポートに関する基本的な知識・技術の習得を望みつつも参加が難しいことへの対応を求める体験者からの意見があった。対応方法には、ロールプレイ等集合研修でないと困難な内容はありつつも、患者会の場において簡単な講義を手配する方法や、養成研修プログラムの講義についてeラーニング化し、希望に応じて視聴できるようにすることは解決策になりうる。

【表1】意見交換会の実施

	都道府県	日時	会場	参加者
1	埼玉県	令和元年 8月22日	埼玉県庁	県庁がん対策担当職員3名
2	三重県	8月27日	三重県庁	県庁がん対策班職員2名 がん相談支援センター3名
3	高知県	8月29日	高知県庁	県庁がん対策担当職員3名
4	岩手県	9月3日	岩手県庁	県庁がん対策担当職員3名
5	奈良県	9月11日	奈良県立医科大学 附属病院	県庁がん対策担当職員2名 県立医科大病院3名（医師、緩和ケア担当看護師、がん相談支援センター職員）
6	鹿児島県	9月20日	鹿児島県庁	県庁がん対策担当職員2名 がんサポートかごしま2名
7	長崎県	10月4日	長崎県庁 長崎大学病院	県庁がん対策担当職員1名 長崎大病院4名（医師、歯科医師、社会福祉士） 県内拠点病院3名（がん相談支援センター、社会福祉士、看護師）
8	山梨県	10月30日	山梨県庁	県庁がん対策担当職員3名 山梨県管理事業団3名 がんフォーラム山梨1名
9	熊本県	11月5日	熊本大学病院	県庁がん対策担当職員2名 熊本医療センター1名（医師） 熊本県がん相談員サポートセンター2名 熊本大学病院4名（がん看護専門看護師、事務員）

10	群馬県	11月26日	群馬県庁	県庁がん対策職員2名 郡大医学部病院2名（医師、がん看護専門看護師） 高崎健康福祉大学1名（教授） がん患者2名（連絡協議会会長、患者会代表）
11	島根県	12月3日	島根県庁	県庁がん対策担当職員1名 島根大学医学部附属病院2名（がん患者・家族支援サポートセンター（地域統括））
12	福岡県	12月17日	福岡県庁	県庁がん対策担当職員3名
13	沖縄県	令和2年 1月21日	沖縄県庁	県庁がん対策担当職員2名 琉大病院5名、県立中部病院2名（がん相談支援センター） 那覇市立病院3名、中頭病院2名 県がん患者連合会3名 患者会代表3名
14	香川県 （予定）	3月26日	香川県庁	

医療者向け研修会の実施

	都道府県	日時	会場	参加者
1	山口県	令和元年 10月23日	山口県庁 県政資料館	県庁がん対策担当職員2名 県内拠点病院相談支援センター職員12名（看護師、保健師、MSW、社会福祉士）
2	岩手県	令和2年 2月6日	岩手医科大学 創立60周年 記念館	県庁がん対策担当職員3名 県内拠点病院26名（医師、看護師、保健師、MSW、社会福祉士）

【表2-1】意見交換会 概要

この表は委託事業HP(<http://www.peer-spt.org/>)からも閲覧できます。

訪問順		1	2	3
都道府県		埼玉県	三重県	高知県
意見交換会実施日		8月22日	8月27日	8月29日
先方からの出席者		県庁がん対策担当職員3名	県庁医療保健部健康づくり課がん・健康対策班職員2名 がん相談支援センター3名	県庁がん対策担当職員3名
委託事業からの出席		若尾、石川、小川	佐々木、石川、秋月、小川	小川
ピアサポーター 養成研修の開催	開催の有無	有 無	有 H21年から毎年1～2回ずつ、三重県がん相談支援センターで行ってきている。研修会の内容はその時々で異なる。	無
	定期開催(定期開催している、継続的に行っている)			
	不定期開催(継続的ではない、継続するか未知数)	H25、26年に計40名養成(それ以後養成研修は行われていない)。		
修了証発行の有無		有	三重県がん相談支援センターの名前で発行している。	
登録制度の有無(担当部署)		8月末時点で19名登録。県で管理。	登録は行っており約70名が登録(2017年時点)。養成研修受講は必須としていない。三重県がん相談支援センターで管理。	
更新制度の有無(担当部署)		無	半年度更新。三重県がん相談支援センターで管理。	
フォローアップ研修(定期開催の有無)		年3回、登録したピアサポーター対象に開催。活動の振り返りや講義受講などにより、スキルアップを図っている。継続的に行っている。	年に1回～2回開催している。内容は傾聴・受容について	
ピアサポーター の現在の活動	個別対応系		・県立がんセンターにて週3回、埼玉医科大学国際医療センターにて月2回の相談活動。	・県内7か所の「おしゃべりサロン(地域がんサロン)」内での活動(三重県がん相談支援センターが運営し、公民館、保健センター等で行っているもの)。
	がんサロン等の グループサポート系	拠点病院	・県立がんセンターでは、病院からの依頼を受け、年に1、2回がんサロンでの講演や語り合いに参加。県立がんセンター以外で、ピアサポーターが拠点病院のがんサロンに参加する形はとっていない。	
		非拠点病院、地域がんサロン	無	・県内7か所の「おしゃべりサロン」と各拠点病院のサロンは別に動いている。
	その他		・県主催の多職種によるがんワンストップ相談に、就労経験のあるピアサポーターががん経験者として相談に従事。 県で要綱を定め、シフトを調整。 また病院ごとに、活動の詳細なルールを定めている。	
サポーターのマネジメント体制		活動の振り返りは、各病院の医療従事者の協力を得ている。	・「おしゃべりがんサロン」への派遣は三重県がん相談支援センターで行っている。	
サロン運営や相談対応における医療者の参加や協力、振り返りについて			・地域の医療機関に協力を依頼し、参加いただいている。 ・振り返りは「おしゃべりサロン」終了後30分程度毎回行っている。	
がんサロン、ピアサポートに関する協議会・部会等での検討の有無		がん診療連携協議会相談支援部会ではがんサロンの話題は上がるが、ピアサポートの話題は僅かである。		無
医療者の協力、連携体制の確保		・フォローアップ研修会の開催の際、拠点病院等のがん相談員の方に参加を依頼している。	・こちらから医療者側に積極的なアプローチを行っていないため、どのような反応があるか不透明。	・相談支援部会には相談員のみで構成されており医師の参加がなく、相談員個々に意欲があっても組織として理解が得られにくい病院もある。
その他課題等		・県のがん対策推進計画(H30～R5)においてピアサポーターによる対応を現在の2拠点病院からすべての拠点病院(13病院)での対応を目標としている。	・研修を受け賃の担保されたサポーターを各病院に配置することを目指したい	・ピアサポート活動がほとんど行われていない状況。どのようなことから着手すべきか。 ・地域統括相談支援センターはあるが、そこではピアサポート活動にかかるとは行われていない。

【表2-2】意見交換会 概要

この表は委託事業HP(<http://www.peer-spt.org/>)からも閲覧できます。

訪問順		4	5	6
都道府県		岩手県	奈良県	鹿児島県
意見交換会実施日		9月3日	9月11日	9月20日
先方からの出席者		県庁がん対策担当職員3名	県庁がん対策担当職員2名 県立医科大学3名(医師、緩和ケア担当看護師、がん相談支援センター職員)	県庁がん対策担当職員2名 がんサポートかごしま2名
委託事業からの出席		佐々木、天野、松本、小川	佐々木、小川	天野、小川
ピアサポーター 養成研修の開催	開催の有無	有(患者会主催)	有	有
	定期開催(定期開催している、継続的に行っている)			・がんサポートかごしまではH23年から養成研修を実施。これまで61名が講座を受講している。 ・県主催での養成研修を行って来ていなかったが、今年度初めてがんサポートかごしまと協働で県主催の養成研修を県内3か所で行う。
	不定期開催(継続的ではない、継続するか未定)	H27に県立中部病院にて患者会が主催の養成講座を行った。それ以後は行われていない。	・H21,23,25年度に、対がん協会テキストをもとに奈良県で独自に作成したプログラムで養成研修を実施。48人が修了、登録。 ・今年度1/25,26に奈良県主催、当委託事業プログラムを元にした研修会を実施。	
修了証発行の有無		有	県の部長の名前で発行している。 ※R1年度養成者は局長名で発行 現在登録し活動をしているのは約20名。奈良県で管理。 1~2年毎に意向調査を実施	今年度県で行う研修会はNPO法人がんサポートかごしまの名前で発行
登録制度の有無(担当部署)		中部病院のみ登録をして受け入れている(中部病院で管理)。		無
更新制度の有無(担当部署)		無	なし	無
フォローアップ研修(定期開催の有無)		H29年に1度開催したのみ。(県立中部病院にて)。	H21~26年度 フォローアップ研修会実施(それ以後は行われていない)。	県としての実施はしていない
ピアサポーター の現在の活動	個別対応系			不明
	がんサロン等の グループサポ ート系	拠点病院	・県立中部病院のみの活動。それ以外の拠点院内サロンでのピアサポーターの活動は把握できていない(一般のボランティアとして活動)。	・登録されたサポーターが拠点院内サロン9か所の活動に携わっている。
		非拠点病院、地 域がんサロン		・県内3か所の保健所で実施されるサロンへの参加。
	その他			
サポーターのマネジメント体制				5病院にはがんサポートかごしまからサポーターを派遣。 不明
サロン運営や相談対応における医療者の参加や協力、振り返りについて			・サロンを開催するときは職員も在室し振り返りを行っている病院やそうでない病院もあり、対応は様々。	
がんサロン、ピアサポートに関する協議会・部会等での検討の有無		現状どこの部会でも話し合われていない。	毎年1回、拠点病院等の相談員・保健所担当者を対象に「がん患者サロン運営者会議」を実施。各サロンでの課題や工夫点を情報共有している。	現状どこの部会でも話し合われていない(がんサポートかごしまで養成・派遣をしてきた経緯もあり)。
医療者の協力、連携体制の確保		・現状連携は取れていない。 ・積極的に動いてくれそうな方もいるが、各病院の特色があり、一斉に進めるのは難しい。		・これまで県が病院側にアプローチを行って来ていない。 ・研修をすることは比較的受け入れてもらえそうであるが、養成後派遣するとなったときどの程度協力してもらえるか不明。 ・今年度実施する予定の養成研修会では医療者にも参加してもらう予定。
その他課題等		・ピアサポート活動が、県立中部病院を除いてほとんど行われていない状況。どのようなことから着手すべきか。 ・研修をどこが主体となって運営すべきか(適切な委託先がない)。 ・どの程度の分量(時間数等)、内容(医療知識など)で行うべきか、県によりスタイルがまちまちで、確立したパターンがない。 ・ピア・サポーター養成後の活躍の場の確保をどうするか。	・新しいピアサポーターを養成してほしいという声も上がっており、早急に養成研修に着手したい。ゆくゆくは小児がん経験者、AYA世代のサポーターも養成したい。目標は50人養成。	・養成研修会への参加者が少ない。「病気を表にしないので」との理由で参加されない方も。 ・がんサポートかごしまで養成してきているが、鹿児島市内での活動にとどまってしまう。

【表2-3】意見交換会 概要

この表は委託事業HP(<http://www.peer-spt.org/>)からも閲覧できます。

訪問種		7	8	9
都道府県		長崎県	山口県 (医療者向け研修会)	山梨県
意見交換会実施日		10月4日	10月23日	10月30日
先方からの出席者		県庁がん対策担当職員1名 長崎大病院4名(医師、歯科医師、社会福祉士) 県内拠点病院3名(がん相談支援センター：社会福祉士、看護師)	県庁がん対策担当職員2名 県内拠点病院相談支援センター職員12名(看護師、保健師、MSW、社会福祉士)	県庁健康増進課がん対策推進担当職員3名 山梨県健康増進事業団2名 県立中央病院緩和ケアセンター1名 NPO法人がんフォーラム山梨1名
委託事業からの出席		天野、松本、小川	若尾、小川	松本、小川
ピアサポーター養成研修の開催	開催の有無	無	有	有
	定期開催(定期開催している、継続的に行っている)			・H22「がん患者ピアサポート研修会」を実施。以後、年間4回の養成研修プログラムを、県主催で毎年開催してきた。 ・H30年から養成研修を患者会に委託。 ・H22～R1年度までの間に、100名を上回る程度の受講者が養成研修を修了している。
	不定期開催(継続的ではない、継続するか未知数)		H28、H29に半日程度のワークショップや情報交換会を実施。聴聴をテーマに行った。H30年度にピアサポート研修会(ピアサポートにとって大事なこと)を実施した。	
修了証発行の有無			無	県知事名で発行している。4回の研修プログラムを受けて修了。
登録制度の有無(担当部署)			無	有
更新制度の有無(担当部署)			無	無
フォローアップ研修(定期開催の有無)			無	・H30年度に開催し、今後3年に1回の実施頻度を予定している。
ピアサポーターの現在の活動	個別対応系			
	がんサロン等のグループサポート系	拠点病院	・サロンによってはピアサポーター的役割を担っている方もいるし、サロン内で活動しているが、本来のピアサポーターの活動というよりは事務補助やイベント補助として携わっている方もいる。	・拠点病院5か所中、3か所のサロン等ではピアサポーターが携わっている。 ・サポートに入る際は、必ず複数(2名が基本)のサポーターが介入し、情報の漏りをなくす工夫をしている。 ・サポート終了後は振り返りを兼ねて簡単な記録を残し、リピートする相談者の対応に役立っている。
		非拠点病院、地域がんサロン		・『がん患者サポートセンター』にて、毎週火曜日の午後3時開催している。不定期ではあるが、甲府市以外にも出張相談会を開催している。
		その他		・各ピアサポーターは、個別に相談があったときは『がん患者サポートセンター』での対面サポートに誘導している。
サポーターのマネジメント体制			無	・毎月最終日曜日にピアサポーターによる定例会が行われ、事例検討とスキルアップを行っている(山梨がんピアサポート希望の会)。 ・毎月開催されている定例会には、山梨大学医学部附属病院地域医療学講座の教授(山梨県がん相談支援と情報提供あり方検討会座長)の参加があり、専門家として情報提供が行われている。 ・『山梨がんピアサポート希望会』では、毎月振り返りを行っている。回数は、すでに100回を超えている。 ・『山梨がんピアサポート希望会』事務局(甲府市内)でも、相談のつなぎを行っている。『がん患者サポートセンター』と連絡がつかないときなどのフォローになっている。 ・山梨県がん診療連携拠点病院である『山梨県立中央病院』では、がん相談支援室の看護師と、ピアサポートの後のアセスメントと振り返りを必ず行っている。 ・地域がん診療連携拠点病院である『山梨厚生病院』では、担当看護師と振り返りを行っている。また、乳癌外科の担当医や看護師が、来院前の患者にピアサポートを紹介している。
サロン運営や相談対応における医療者の参加や協力、振り返りについて		・サロンを運営する中で、病院側が求めることと、サロン内で活動されていた方の考えにズレが生じ、病院から参加をお断りしたケースもある。	・サロン開催中、不適切な対応があった場合は職員がフォローに入ったりしているが、全員がピアサポート研修を受けているわけではないので対応に苦慮している(ある拠点病院のサロン)。	
がんサロン、ピアサポートに関する協議会・部会等での検討の有無		月1回、相談支援部門(ワーキング)の会議を開催。ピアサポートについて議題として取り上げているが、養成やその後の活動の場等に関して具体的な検討は進んでいない。	相談支援部会は定期的に開催されている。しかしピアサポートに関する話題はあまりない。あったとしても研修会の感想、反省ぐらい。	相談支援部会では議題に上がり、少しずつではあるが進んでいる。
医療者の協力、連携体制の確保				・患者会の運営・養成研修等に関わっていた先生もいるが、全体的にピアサポートに対して医療者がどんな認識を持っているかわからない。サロン等の運営も不安があるという声がある。 ・拠点病院の職員自体に『ピアサポート』の存在が知られていないため、職員がピアサポートのことを聞かれても適切な対応ができていない。 ・通院中のがん患者から、ピアサポートを展開していることを早く知ることが言われているほど院内での周知ができていない。 ・オープンサロンではない拠点病院サロンもある(患者会の集まりに場を提供しているのみ)。
その他課題等		・サポーター養成後の活動の場所をどう設けるか。 ・サポーターの処遇(旅費等)をどうするか。 ・サロンは縮小傾向にあり、サポーター養成までに至らない。活動の中心になってもらえそうな人もなかなかいない。	・行政、医療機関、患者会等のそれぞれの立場によって、また研修会参加者の中にもピアサポートに対するイメージや研修会に求めることは同じではなく難しさを感じている。 ・サロンの参加者が固定されてきておりマンネリ化している。	・ピアサポーターの活動の場が少ないとの意見がある。 ・今後はがん患者等の相談支援ネットワークを構築する新規事業を予定し、強化を図るための基礎情報を把握するために、実態やニーズ調査なども行うこととしている。

【表2-4】意見交換会 概要

この表は委託事業HP(<http://www.peer-spt.org/>)からも閲覧できます。

訪問順	10		11		12	
都道府県	熊本県		群馬県		島根県	
意見交換会実施日	11月5日		11月26日		12月3日	
先方からの出席者	県庁がん対策担当職員2名 熊本医療センター1名(医師) 熊本県がん相談員サポートセンター2名 熊本大学病院4名(がん看護専門看護師、事務員)		県庁がん対策職員2名 郡大医学部病院2名(医師、がん看護専門看護師) 高崎健康福祉大学1名(教授) がん患者2名(連絡協議会会長、患者会代表)		県庁がん対策担当職員1名 島根大学医学部附属病院2名(がん患者・家族支援サポートセンター(地域統括))	
委託事業からの出席	松本、吉田、小川		佐々木、若尾、松本、小川		松本、小川	
ピアサポーター養成研修の開催	開催の有無		有		有	
	定期開催(定期開催している、継続的に開催している)		継続的に開催している。 ・近年ではH30年度、「ピアサポート基礎セミナー」の実施。49名の参加。今年度は「がんピアサポートセミナー」を2回実施(2回目は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)。		県として対がん協会テキストを使用した養成研修会をH24年から4回開催している。128名修了。 ・H24、25年度に、島根県立大学が養成研修を行った。 ・H28年度に、島根大学ががん患者・家族サポートセンター(地域統括)が、コミュニケーションの意義などを重点に置いた養成研修を行った。	
	不定期開催(継続的ではない、修了証発行の有無)		無		有	
登録制度の有無(担当部署)	登録された6名で「がんピアおしゃべり相談室」に対応している。熊本県がん相談員サポートセンターで管理。		登録し実際に活動をしているのは68名。群馬県健康づくり財団に委託し管理。		H24、25、28年に養成研修を受けた25名の方が登録し活動している。がん患者・家族支援サポートセンター(地域統括)が所管。	
更新制度の有無(担当部署)	現状行っていないが、更新制も考えていきたい		無		無	
フォローアップ研修(定期開催の有無)	不定期で行ってきている。近年はH29年に実施。		H25年以降毎年開催。傾聴スキルや、治療や関係する制度の最新情報について扱っている。		H26年から毎年開催。がんの最新治療、ピアサポーターの意義、コミュニケーション方法などを確認。	
ピアサポーターの現在の活動	個別対応系		熊本県が実施している「おしゃべり相談室」(月11回、県内拠点病院3か所)で2人1組の対応をしている。		対応可能であるが、現在のところ要望がない	
	がんサロン等のグループサポート系	拠点病院	・拠点病院18か所サロンでピアサポーターが携わっている。		・拠点病院の各サロンでの相談対応をしている	
		非拠点病院、地域がんサロ	・非拠点病院5か所、行政機関、個人宅で開かれているサロンへの参加。		・養成研修会修了者の内、有志が地域サロンを開催している。	
	その他		・リレー・フォー・ライフでおしゃべり相談室を実施。		・県内企業の社内研修会への派遣。	
サポーターのマネジメント体制	熊本県がん相談員サポートセンター(熊本大病院内)で、「がんピアおしゃべり相談室」への派遣手続きを行っている。		県が群馬県健康づくり財団に委託し派遣等の管理をしている。		がん患者・家族支援サポートセンター(地域統括)で拠点病院等で開催する「ピアサポーター相談会」への派遣を行っている。	
サロン運営や相談対応における医療者の参加や協力、振り返りについて	・病院内サロンへの医療者の介入は施設によって異なる(常在室している、何かあったら呼んで、というタイプなど)。振り返りの時間を設けているところ、ないところがある。 ・「おしゃべり相談室」は毎月最終活動日に事例検討などの振り返りを行っている。 ・「おしゃべり相談室」では報告書での記録を残しているが、サロンでは報告書の作成は行っていない。		振り返りは会の開催ごとに行い、病院内サロンでは医療者にも入ってもらっている。地域がんサロンでも行っている。		ピアサポーター相談対応後、がん患者・家族支援サポートセンター(地域統括)職員と一緒に振り返りしている。しかし振り返り用紙が数行の記入だけだったり、対応にあたった感想を言っていたのみになっており、形だけになっている部分も見受けられる。	
がんサロン、ピアサポートに関する協議会・部会等での検討の有無	・「おしゃべり相談室」について、県から相談員WGに報告を上げてもらっている。 ・がんサロンネットワーク熊本の活動について、熊本県がん診療連携協議会 相談支援情報連携部会にも、サポートセンターから活動報告している。		有。がん対策推進協議会相談支援・情報提供専門分科会・がん診療連携協議会相談支援部会。数年前にがん診療連携協議会の相談支援部会の中でピアを受け入れてもらうことになりました、という好事例を紹介し、その後ピアの受入が拡大した経緯がある。		有	
医療者の協力、連携体制の確保	・各施設で医療者がサロンやサポーターに対する関わり方や認識が異なる。拠点病院のがん相談員も「おしゃべり相談室」についてよくわかっていないことも。おしゃべり相談室を開催していない病院の相談員にも、おしゃべり相談室についての理解を深め情報提供できるように、実施施設の相談員から相談員WGで情報提供をしている。		医療者、県、患者会の連携は比較的取れている。しかし、まだオープンサロンではない拠点病院もある。		協議会下部組織の「がん相談員実務担当者会」(拠点病院等の相談員)と協力して、ピアサポート相談会の運営やフォローアップ研修を実施。	
その他課題等	・世話人が不在、後継者が不在のサロンがいくつかある。 ・ピアサポーターのスーパーバイザーになる方がおらず、フォローアップをどのように行っていくかが課題。		・サポーターのマナーの問題が散見された(居眠り、スマホいじりなど)。 ・がん教育における活動も見据え、自分の体験を適切に語る技術について研修を行いたい。 ・各拠点病院でサロンの周知方法や活動に温度差があり、サロンを開いても利用者のいない場合もある。各拠点病院にピアサポーターの有効性をより理解してもらえよう検討したい。ピアについて理解してもらえよう研修会に病院関係者も参加してもらえよう呼びかけたい。		「ピアは個別相談に対応するもの」「ピアとサロンは別物」といった認識が根強い。	

【表2-5】意見交換会 概要

この表は委託事業HP(<http://www.peer-spt.org/>)からも閲覧できます。

訪問順		13	14
都道府県		福岡県	沖縄県
意見交換会実施日		12月17日	1月21日
先方からの出席者		県庁がん対策担当職員3名	県庁がん対策担当職員2名 琉大病院5名、県立中部病院2名(がん相談支援センター) 那覇市立病院3名、中頭病院2名 県がん患者連合会3名 患者会大集3名
委託事業からの出席		若尾、松本、小川	天野、小川
ピアサポーター養成研修の開催	開催の有無	有(患者会主催)	有
	定期開催(定期開催している、継続的に行っている)	・2013年から計4回、「がん・バツテン・元気隊」が九州がんセンターのバックアップのもと、養成研修を行ってきている。4回で約120名が修了。	・H23年から8回養成研修会を開催。計80名修了。離島から参加する人には旅費をお支払いしている。
	不定期開催(継続的ではない、継続的に行っていない)		
修了証発行の有無		・「がん・バツテン・元気隊」が発行。	有(沖縄県地域統括相談支援センターセンター長名で発行)
登録制度の有無(担当部署)		・「がん・バツテン・元気隊」への登録は100名ほど。実際活動していただいている方は少数。	40名登録している。地域統括相談支援センターで担当。
更新制度の有無(担当部署)			現状行っていないが、更新制も考えていきたい
フォローアップ研修(定期開催の有無)			H24年から6回開催。養成研修で学んだ基礎をもう一度復習し、スキルアップを図っている。
ピアサポーターの現在の活動	個別対応系		・地域統括相談支援センター(琉大病院内)にて週4日の相談対応。
	がんサロン等のグループサポート系	拠点病院	・19拠点病院中、13病院にはピアサポーターが関わっている。 ・「がん・バツテン・元気隊」に登録されているサポーターは主に九州がんセンターでの活動。 ・九州がんセンター以外のサロンでのピアサポーターの活動状況について県側は把握できていない。
		非拠点病院、地域がんサロン	
その他			・ピアサポート事業を周知するための医療機関への説明会参加 ・各患者会内での活動。
サポーターのマネジメント体制		九州がんセンターには「がん・バツテン・元気隊」からサポーターが派遣されている。	・地域統括相談支援センター(琉大病院内)が活動の場の紹介、派遣等を行っている。
サロン運営や相談対応における医療者の参加や協力、振り返りについて			
がんサロン、ピアサポートに関する協議会・部会等での検討の有無		近年でのピアサポート活動に関する議題は確認できていない。	・地域統括相談支援センターの活動報告という形で上げてはいるが、ピアサポート活動に関して具体的な議論はしたことがない。
医療者の協力、連携体制の確保		・九州がんセンターとの連携はある。医療者と連携できる下地はありそう。	・拠点6病院ではサロンは運営されている。 ・しかしピアサポーターの活動を把握してくれているのは医療ソーシャルワーカーや緩和ケア認定看護師のみで他の医療者から十分な理解を得られていない部分がある。受け入れ態勢が整っていないと修了生の活躍の場が限定されてしまう。
その他課題等		・患者会の情報を県で集約し、患者それぞれに合ったサロンを案内できるようにしたいと考えている。	・離島、へき地などでは地域柄、病気を公にしたいという人も多い。サロンを開いても参加者0～数人ということも。

「がん総合相談に携わる者に対する研修事業」報告書

ピア養成研修ワーキンググループ報告

ピア養成研修ワーキンググループ長 秋月 伸哉

がん感染症センター 東京都立駒込病院 精神腫瘍科・メンタルクリニック 部長

A. 目的

本 WG の目的は、すべての都道府県で継続的に進め、実際の活動につなげることができるピアサポーター養成プログラムを開発することである。厚生労働省委託事業「がん総合相談に携わる者に対する研修事業」（2018年度）でピアサポーター研修プログラム、並びにピアサポーター養成テキストが作成し、パイロット版の研修を実施した。

本年度は開発されたプログラムが各都道府県で実装できるようにするため、下記を行った。

B. 経過

1. ピアサポーター養成テキストの改訂

大幅な改定を行わず、表現の微細な修正にとどめた。

また活動を振り返るための記録用紙の例があったほうがよいという利用者の声から、複数の都道府県で利用されている記録用紙のサンプルを追加掲載することとした。

2. ピアサポーター養成研修会運営マニュアルの作成

今後、各都道府県で養成研修会を開催できるようにするため、養成研修会開催の準備（予算、必要な会場など）、当日のプログラムに沿った運営方法（準備物品、机の配置、ファシリテーターの役割など）をマニュアル化した。

昨年度、グループファシリテートの技術が短時間で扱うのが難しいが、現場のニーズは高く、本研修プログラムで扱うかどうかが課題として挙げられた。委員会で議論し、原則プログラムとして扱うが、開催地域のニーズに合わせて他のプログラムに差し替えることもできることとした。

3. 都道府県主催でのピアサポーター養成研修会の実施

各都道府県にピアサポーター養成の準備状況、モデル事業としての開催について希望を確認し、希望のあった三重県で開催することとなった。2018年に開発した講義、ロールプレイ、グループワークからなりピアサポーターと医療・行政担当者が参加するプログラムだが、事前の打ち合わせで、三重県のピアサポート活動状況からグループファシリテートのセッションを全体討論の時間に差し替えた。

2020年2月9日、16日にピアサポーター養成研修会（日本サイコオンコロジー学会主催、三重県共催）を実施した。2月9日34名（ピアサポーター19名、医療・行政担当者8名、見学者7名）、2月16日28名（ピアサポーター19名、医療・行政担当者6名、見学者3名）が参加した。

参加者は2日間で10単元のプログラムに参加したが、いずれのプログラムも90%以上が有用であると事後アンケートに回答した。自由記載内容について代表的な意見を以下に示す。

（アンケート結果から一部抜粋）

プログラムの構成について

- ・内容が濃く、わかりやすく、気が抜ける暇がなかったですが、休憩も適度がありました
- ・2日間大変でしたが必要なプログラムと感じました

難しい内容はありましたか？

- ・ロールプレイは難しかったが、他の方々のロールプレイを見せてもらい、丁寧な振り返りがとても勉強になりました

- ・ロールプレイが自分の体験と重なりすぎた。
- ・がん対策基本法についての基礎知識が薄く理解するのにやや苦労した

追加してほしい内容はありますか？

- ・実際のサポート例をもとに話し合いをしたい
- ・行政・医療者・ピアサポーターが意見交換する時間

その他

- ・ピアサポーター同士の交流時間が欲しかった
- ・ピアサポートを理解する良い機会になりました
- ・三重県の患者サロンは知られていない

アンケート結果から、おおむね妥当なプログラム構成であることが想定された。参加者の背景（ピアサポーターとしての経験の有無、個人的な体験）から、より高度な内容を求める参加者や、心理的負担に配慮を要する参加者への対応を検討する必要があると思われる。

4. ピアサポーター養成プログラムの修正

三重県での研修会開催で気づいた問題についていくつかの修正を行った。

- ・テキストの記載順に合わせたプログラム順の変更
- ・医療・行政担当者向けスライドの追加
- ・講義「医療・行政がピアサポート支援でできること」をピアサポーター向けに行うプログラムを追加

C. 考察

2018年度に開発されたテキスト、プログラムをもとに、テキストの一部改訂、サポーター養成研修会開催マニュアルの開発、研修会プログラムの一部修正を行った。また昨年度（全国から参加者を募集）より、今後の開催実態に近いかたち（都道府県で募集）で、三重県でのピアサポーター養成研修会を実施した。最終的には三重県での研修会開催で問題点の洗い出しを行ったが、大きな問題はなく、微細な修正にとどまった。

今後検討すべき課題として以下が挙げられた。

- ・プログラム作成者以外が研修会を運営できるか、もしくは熟練者が研修会開催をサポートする体制を整えるべきか。
- ・ロールプレイシナリオ追加（AYA世代などサポーターと背景が大きく異なる利用者への対応）
- ・スキルが高い参加者向けの工夫（自分の体験を語る際のテーマ設定など）

「がん総合相談に携わる者に対する研修事業」報告書

短期サポートワーキンググループ 報告

短期サポートグループワーキンググループ長 平井 啓

大阪大学大学院人間科学研究科 准教授

A. 目的

がん患者を対象とした「サポートグループ」は、がん患者の情緒面や対処能力向上のための心理社会的支援の方法として世界の多くの医療施設において提供されている。日本においては、がん対策基本法の施行以来、がん患者のQOL向上のために相談支援体制の確立と均てん化、さらにピアサポーター養成が取り組まれる様になってきた。しかし、現在のところ、がん診療に携わる医療機関において、これらの心理社会的支援の方法が十分に行われているとは言い難い。がん診療を行う病院においては、がん患者へ心理社会的サポートを提供するプログラムとして、医療従事者が運営する構造化された、あるいはピアサポーターが中心となり運営される「がんサポートグループ」を開催するなどにより、がん患者やその家族に対する支援の選択肢の幅を広げることが求められる。

このような心理社会的支援の拡充のためには、これを行うリソースの問題など各施設それぞれの事情を考慮した体系的資料やプログラムが求められる。特にがん患者へのサポートグループについては、これまでがん診療を行う病院の担当者の目線で、自施設の事情にあった「サポートグループ」を企画・開催するため、またすでに開催されているがんサロンやピアサポーターによるサポートグループの運営上の課題解決や質向上を行うための体系的で簡便な資料がなかった。

そこで昨年度、短期サポートワーキング委員会は、さまざまな「サポートグループ」の運営に携わったメンバーにより、ピアサポートを含む、さまざまな形や目的の「サポートグループ」に関して構造と機能の整理を行い、おもにがん診療を行う病院で勤務するがん患者を対象としたサポートグループの企画・運営に携わる医療従事者を対象とした、「がん

サポートグループ運営の手引き」を作成した。今年度はこのサポートグループ運営手引きを元に、サポートグループを含むサポートプログラムの全体像を示し、その企画ができるように改訂作業をおこない、「がんサポートプログラム企画の手引き」を作成した。

B. 経過

まず、ワーキングにおいて、がんサポートプログラムの目的について検討を行った。

まずがんサポートプログラムの必要性として、がん診療を行う病院は、がんの診療部門のみでなく患者と家族をサポートする部門と連携して、個別相談などの個別サポートと同病者との相互作用を活かしたサポートグループなど、総合的な心理社会的支援が受けられる体制づくりが必要であることを指摘し、病院以外にも住み慣れた地域においても、心理社会的支援を受けられる場との連携の必要性を統合的に示した。

次に、がんサポートプログラムの目的として、以下のものを含むべきとした。

- ① がん患者やその家族が安心して自分の悩みや体験など、指示や否定される事なく丁寧に話を聴いてもらえる場がある事で「今まで誰かに話す事はできなかったけど、ここは安心して話をする事ができた」「がんになった私でも受け入れてくれる場所があるのだ」と、安心感や所属感を感じられるようになる。
- ② 社会的孤立からも抜けだせるだけではなく、そこが自分の居場所の一つにもなる。
- ③ 悩んでいる人に自分の体験を話す事で、その体験が他の人の役に立つ感覚が持てることで「がんになった自分でも価値があるのだ」と、自分の存在価値を認めることができ自己肯定感が高まる。

- ④ 定期的にがんサポートプログラムが開催されていれば、次に参加する目標が治療のモチベーションに繋がる。
- ⑤ 治療中の方には痛みや吐き気などの対処スキル、他にも病院や家での過ごし方や学校や職場への伝え方、社会資源の受け方など体験した人ならではの具体的な情報を得る。

次に、がんサポートプログラムの形態としては、①講演会・レクチャー・がん教室など、②個別サポート、③サポートグループの4つの形態があり、医療従事者・院内スタッフが運営の主体となり、そこにピアサポーターが参加することが望ましいとした。

次に、理想のサポートプログラムとしては、がんの治療経過の中でそれぞれの時期で生じる心理社会的な悩み、ニーズに合うように、がん患者や家族が選択できる複数のプログラムがあることが望ましいとされた。一方で、最低限のがんサポートプログラムとしては、がん相談支援センターでの個別の相談支援体制に加えてピアサポーターと協働して運営するサポートグループや患者サロンを定期開催することであるとされた。

この中でサポートグループの開催・運営については昨年度まとめた、「がんサポートグループ運営の手引き」の内容を踏襲することとした。

C. 考察

短期サポートワーキング委員会は、がん診療に携わる医療機関において、がんサポートプログラムやサポートグループができるだけ負担のない形で拡充されることを目指すために、あえてひとつのプログラムを開催すると

いうのではなく、「がんサポートプログラムの企画の手引き」という形で、サポートグループ本来の目的を整理し、それを実現するための多様な方法をそれぞれの施設で工夫できるようにするために、サポートグループの運営に経験のある委員の議論をまとめ、具体的な例示を試みた。

今後の課題としては、ピアサポーター養成プログラムのコンテンツとの対応を強化することである。がん診療拠点病院においてピアサポーターがファシリテーターとして、がんサロンや個別支援を行えることは理想的であるが、ピアサポーターが安心してそのような活動に携わることができるようになるためには、本手引で示した、サポートプログラムの全体像を踏まえ、開催する病院における位置づけとその目的を明確化し、医療従事者や院内スタッフが運営の責任者となった上で、ピアサポーターにしか提供できない部分について担ってもらう必要があると考えられる。また、ピアサポーターの育成や確保が難しい場合は、医療従事者や院内スタッフがファシリテーターとなったサポートグループの開催を検討すべきである。

本手引きで示したような多様な方法ががん患者の支援において可能であり、できるだけ多くの選択肢をがん患者に対して示すことが、がん診療拠点病院には求められるのではないかと考えられる。

今後は、さらなる内容の検討を行い、ピアサポーター養成プログラムのとのコンテンツの調整ならびに、実際のサポートプログラム運営のコンサルテーション活動の実施を検討したい。

支援希望のあった都道府県に対する支援

【支援の概要・目的】

ピア・サポートは、がんを含めた慢性疾患に対する基礎的な心理社会的な支援の一形式である。わが国のがん対策においては、平成 23～25 年度に、公益財団法人日本対がん協会が厚生労働省委託事業「がん総合相談に携わる者に対する研修プログラム策定事業」を実施し、ピア・サポートに必要な相談員の基本的なスキルを身につけるための研修プログラムを策定し、説明会の開催やホームページ等によりその周知を図っている。しかし、平成 28 年 9 月に総務省が公開した「がん対策に関する行政評価・監視結果報告書」では、平成 27 年度のピア・サポート研修の実施状況ならびに活動状況を 17 都道府県、51 がん診療連携拠点病院を対象に調査をしたところ、都道府県等においてピア・サポート研修が実施されていない状況や、拠点病院における相談支援や患者サロンへのピア・サポーターの受け入れが十分に進んでいない状況を確認した。この報告を受けて、がん対策推進基本計画（第 3 期）では、ピア・サポートについて、国が作成した研修プログラムの活用状況に係る実態調査を行い、ピア・サポートが普及しない原因を分析し、研修内容の見直しやピア・サポートの普及を図ることとされた。

上記計画を受け、今年度当事業ではピア・サポートに関する事業に対し支援を希望する都道府県との意見交換会を実施した。各都道府県でのピア・サポート活動・運営の実態を把握し、また課題を共有しながら、ピア・サポート活動のあり方の検討、提案を行った。

【対象】 令和元年 6 月に厚生労働省から全都道府県のがん対策主管課に「がん総合相談に携わる者に対する研修事業における研修支援を希望する都道府県の募集について」を通知した。この通知に対し、希望の旨の連絡のあった都道府県（17 県）へ支援を行った。

【方法】 支援希望のあった 17 県のうち、12 県には 6 月下旬から 7 月上旬にかけて当学会委託事業事務局よりアンケートを行い、具体的にどのような支援を希望するかを調査した。その後改訂委員会会議で支援の方法について検討を行い、県庁等でアンケート回答に基づき意見交換会を行った。また希望のあった県では医療従事者向け研修会、情報提供を行った。

アンケートは以下の項目で支援希望内容の調査を行った。

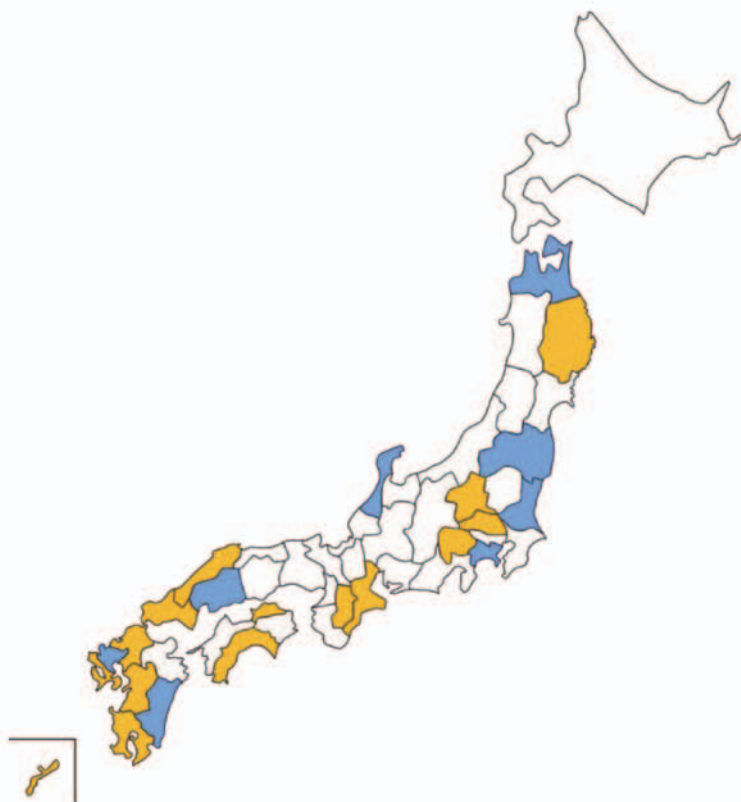
支援を希望することにチェックをお入れください。それぞれの項目に関して、貴県での今ど
 のようになされていて、どのような課題を感じているのか、併せてご記入いただければ幸いです。

	質問	自由記述欄	希望県数
1	事業立案について相談したい（ピアサポートとは何かとか取り組むべきことなど全般）		6
2	養成研修会の企画・準備（研修プログラムの内容の検討等）		10
2-1	研修会の講師の紹介をしてほしい		8
2-2	ファシリテーターの紹介をしてほしい		5
2-3	研修資材（プログラム・テキスト）の提供		9
2-4	参加者の募集の方法を相談したい		5
3	サポーターの登録更新制度、アフターケアの体制作りなど、養成した後の取組みについて相談したい		9
4	フォローアップ研修の企画について相談したい		5
5	行政・医療者向け研修、啓発の企画		4
6	病院との協同体制の作り方について相談したい		7
7	予算申請の支援		1
8	精神保健の専門家の紹介（がん診療連携拠点病院、精神心理的ケアに関する医療従事者など）をしてほしい		1
9	ピア・サポーター活躍の場の紹介をどのように作っていけばよいか相談したい		6
10	その他（自由にお書きください）		

【支援結果】

2019年8月から、14県と意見交換会の実施、2県で医療者向け研修会を実施した。訪問順に、意見交換会、医療者向け研修会の概要について記載した。

支援内容	数	県(施設名)
意見交換会の実施	14	埼玉、三重、高知、岩手、奈良、鹿児島、長崎、山梨、熊本、群馬、島根、福岡、沖縄、香川
医療従事者向け研修会の実施	2	山口、岩手
ピア・サポーター養成研修会の実施	1	三重
テキスト等の資料提供	8	鹿児島、奈良、広島、青森、神奈川、茨城、福島、佐賀
情報提供	2	宮崎大学、石川県がん安心生活サポートハウス がんサロンつどいの場・はなうめ



- 意見交換会の実施、医療者向け研修会の実施、ピア・サポーター養成研修会の実施
- テキスト等の資料提供、情報提供

【意見交換会 概要】

1. 埼玉県

意見交換会実施日：令和元年8月22日（木） 埼玉県庁

先方からの参加者：埼玉県保健医療部疾病対策課 がん対策担当3名

- 1) 委託事業委員から事業概要説明
- 2) 埼玉県でのピア・サポート活動の紹介
- 3) 意見交換
 - ・現在登録しているピア・サポーターの活動について
 - ・がんサロンとピア・サポーターの連携について
 - ・研修会開催時の講師について
 - ・病院との共同体制の構築について

2. 三重県

意見交換会実施日：令和元年8月27日（火） 三重県庁

先方からの参加者：三重県医療保健部 健康づくり課 がん・健康対策班2名
三重県がん相談支援センター3名

- 1) 委託事業委員から事業概要説明
- 2) 三重県でのピア・サポート活動の紹介
- 3) 意見交換
 - ・ピア・サポーターの医療側の受入体制について
 - ・がんサロン同士の連携について
 - ・ピア・サポーター養成研修会の実施について

3. 高知県

意見交換会実施日：令和元年8月29日（木） 高知県庁

先方からの参加者：高知県 健康政策部 健康対策課 3名

- 1) 委託事業委員から事業概要説明
- 2) 高知県でのピア・サポート活動の紹介
- 3) 意見交換
 - ・地域統括相談支援センターとの連携について
 - ・ピア・サポート活動をマネジメントする人について・がん教育との連携について
 - ・今後のピア・サポート活動について

4. 岩手県

意見交換会実施日：令和元年9月3日（火） 岩手県庁

先方からの参加者：岩手県保健福祉部医療政策室 3名

主な議題：

- 1) 委託事業委員から事業概要説明
- 2) 岩手県でのピア・サポート活動の紹介
- 3) 意見交換
 - ・ピア・サポートを担当する部署（協議会、部会）について
 - ・ピア・サポーターの登録体制について
 - ・他都道府県での取り組み
 - ・相談支援センターや認定看護師と、ピア・サポーターの役割について
 - ・患者団体同士の連携について

5. 奈良県

意見交換会実施日：令和元年9月11日（水） 奈良県立医科大学附属病院

先方からの参加者：奈良県福祉医療部医療政策課 疾病対策課 2名

奈良県立医科大学附属病院 3名（医師、緩和ケア担当看護師、がん相談支援センター職員）

主な議題：

- 1) 委託事業委員から事業概要説明
- 2) 奈良県でのピア・サポート活動の紹介
- 3) 意見交換
 - ・奈良県で行ってきたピア・サポーター養成研修会プログラムについて
 - ・がん相談支援員の配置、活動後の振り返りについて
 - ・ピア・サポーター養成研修会の実施について

6. 鹿児島県

意見交換会実施日：令和元年9月20日（水） 鹿児島県庁

先方からの参加者：鹿児島県くらし保健部健康増進課 がん対策係・歯科保健係 2名

NPO 法人がんサポートかごしま 2名

主な議題：

- 1) 委託事業委員から事業概要説明
- 2) 鹿児島県でのピア・サポート活動の紹介
- 3) 意見交換
 - ・がんサロンの運営について
 - ・医療者との共同体制、サロンとの連携について
 - ・事業の継続性について
 - ・フォローアップ研修会で扱う内容について
 - ・広報活動について

7. 長崎県

意見交換会実施日：令和元年10月4日（金） 長崎県庁、長崎大学病院

先方からの参加者：長崎県保健福祉部医療政策課 1名
長崎大学病院 4名
日本赤十字社長崎原爆病院 1名
長崎みなとメディカルセンター 1名
佐世保中央病院 1名

主な議題：

- 1) 委託事業委員から事業概要説明
- 2) 長崎県でのピア・サポート活動、各病院でのがんサロン活動の紹介
 - ・長崎県
 - ・長崎大学病院
 - ・日本赤十字社長崎原爆病院
 - ・長崎みなとメディカルセンター
 - ・佐世保中央病院
- 3) 意見交換
 - ・サロン等でのトラブルを防ぐ方法について
 - ・「自分の体験を語る」ことについて
 - ・ピア・サポーターの活動形式について

9. 山梨県

実施日：令和元年10月30日（水） 山梨県庁

先方からの参加者：山梨県福祉保健部健康増進課3名
山梨県健康管理事業団3名
特定非営利活動法人 がんフォーラム山梨1名

主な議題：

- 1) 委託事業委員から事業概要説明
- 2) 山梨県でのピア・サポート活動の紹介
- 3) 意見交換
 - ・協議会、部会体制について
 - ・がんサロンとピア・サポーターの連携について
 - ・医療者のピア・サポーターに対する認識
 - ・普及啓発活動
 - ・相談支援センターの活動
 - ・がん患者サポートセンター（地域統括相談支援センター）の活動
 - ・がんサロンの運営について
 - ・ピア・サポート、相談支援センターの広報について

10. 熊本県

実施日：令和元年11月5日（火） 熊本大学病院

先方からの参加者：熊本健康福祉部健康局健康づくり推進課2名
熊本医療センター1名

熊本県がん相談員サポートセンター 2名

熊本大学病院 4名

主な議題：

- 1) 委託事業委員から事業概要説明
- 2) 熊本県でのピア・サポート活動の紹介
- 3) 意見交換
 - ・サロンの活動について
 - ・責任の所在について
 - ・医療者のピア・サポートに対する認識について
 - ・「がんピアおしゃべり相談室」の活動について
 - ・他県での取り組みの紹介
 - ・病院とピア・サポーター、サロンの連携について
 - ・ピア・サポーターの活動年数について
 - ・相談対応後の振り返りについて

11. 群馬県

実施日：令和元年 11 月 26 日（火） 群馬県庁

先方からの参加者：群馬県健康福祉部保健予防課 2名

群馬大学医学部附属病院 2名

高崎健康福祉大学 1名

群馬県がん患者団体連絡協議会 1名

がん患者会代表 1名

主な議題：

- 1) 委託事業委員から事業概要説明
- 2) 群馬県でのピア・サポート活動の紹介
- 3) 意見交換
 - ・「地域がんサロンぐんま」の活動について
 - ・「がんサポートブック」について
 - ・振り返り、事例検討について
 - ・養成研修会の内容について
 - ・拠点病院での受け入れ、医療者との共同体制について
 - ・研修会プログラム、養成後の活動の場について
 - ・地域統括相談支援センターについて

12. 島根県

実施日：令和元年 12 月 3 日（火） 島根大学医学部附属病院

先方からの参加者：島根県健康福祉部健康推進課がん対策推進室 1名

島根大学医学部附属病院 がん患者・家族支援サポートセンター 2名

主な議題：

- 1) 委託事業委員から事業概要説明

- 2) 鳥根県でのピア・サポート活動の紹介
- 3) 意見交換
 - ・質の担保、活動後の振り返り、登録制度について
 - ・ピア・サポートの周知、医療者側の対応について
 - ・責任の所在について
 - ・修了証について

13. 福岡県

実施日：令和元年12月17日（火） 福岡県庁

先方からの参加者：福岡県保健医療介護部 がん感染症疾病対策課 3名

主な議題：

- 1) 委託事業委員から事業概要説明
- 2) 福岡県でのピア・サポート活動の紹介
- 3) 意見交換
 - ・ピア・サポートを担当する協議会、部会について
 - ・ピア・サポーター養成研修会について
 - ・ピア・サポーター養成後の活動場所について
 - ・ピア・サポートに対するニーズ
 - ・地域統括相談支援センターについて
 - ・がん教育の外部講師の養成について
 - ・がん患者団体の活動、連携、取りまとめについて

14. 沖縄県

実施日：令和2年1月21日（火） 沖縄県庁

先方からの参加者：県庁がん対策担当職員 2名

県内拠点病院 12名（がん相談支援センター職員）

患者会代表 6名

主な議題：

- 1) 委託事業委員から事業概要説明
- 2) 沖縄県でのピア・サポート活動の紹介、地域統括相談支援センターについての紹介
- 3) 意見交換
 - ・ピア・サポートを担当する協議会、部会について
 - ・各病院でのサロンの活動について
 - ・各病院におけるピア・サポートの受け入れについて
 - ・がん診療連携拠点病院外でのピア・サポート活動について
 - ・養成研修会の実施方法について
 - ・広報活動について

15. 香川県（予定）

実施日：令和2年3月26日（火） 香川県庁

主な議題（予定）：

- 1) 委託事業委員から事業概要説明
- 2) 香川県でのピア・サポート活動の紹介
- 3) 意見交換

【医療従事者向け研修会 概要】

1. 山口県

がんピアサポート医療従事者向け研修会及び検討会

実施日：令和元年10月23日（水） 山口県庁県政資料館

先方からの参加者：県庁がん対策担当職員2名

県内がん診療連携拠点病院相談支援センター職員12名
(看護師、保健師、MSW、社会福祉士)

研修会次第：

- ①講義「ピア・サポートについて」 講師：小川朝生
- ②講義「医療機関や行政が支援できること」 講師：若尾文彦
- ③山口県、各病院でのがんサロン運営状況の紹介、課題の共有
各施設3分ずつで運営状況、課題の発表を行った。
 - ・山口県
 - ・岩国医療センター（がんサロン「ほっとサロン虹」）
 - ・周東総合病院
 - ・徳山中央病院（がんサロン「とことこ」）
 - ・山口県総合医療センター（がんサロン「きららサロン」）
 - ・山口大学医学部附属病院（がんサロン「れんげそう」）
 - ・山口宇部医療センター（「サロンあさひ」）
 - ・済生会下関総合病院（「ふくふくサロン」）
 - ・長門総合病院（「あいの会」）
 - ・都志見病院（患者サロン「だいたい」）
- ④課題に対する提案、質疑応答
 - ・ピア・サポーターの質の担保について
 - ・サロンでのルール設定について
 - ・養成研修後の活動の場について
 - ・サロン間の交流について

2. 岩手県

がんのピア・サポートに係る医療従事者との意見交換会

実施日：令和2年2月6日（水） 岩手医科大学創立60周年記念館

先方からの参加者：県庁がん対策担当職員3名

県内拠点病院相談支援センター職員26名

（医師、看護師、保健師、MSW、社会福祉士）

研修会次第：

- ①講義「ピア・サポートについて」 講師：小川 朝生
- ②講義「ピア・サポートの現状と課題 ～愛媛での活動から～」 講師：松本 陽子
- ③グループワーク

- ・各病院におけるがんサロンの取り組み状況
- ・ピア・サポートの導入状況及びその課題

- ④グループワーク発表

4グループの各班で出た取り組み状況、課題を3分ずつ発表し講評を行った。

（主な課題や検討事項）

- ・医療者に対するピア・サポートに関する啓発活動
- ・ピア・サポーターが安心して参加できる場の提供
- ・ピア・サポーターに関する情報の不足
- ・県内で統一されたピア・サポーターの養成のシステム構築について
- ・ボランティアスタッフ、ピア・サポーターへのサポート（賃金の支払い、補償等）のあり方
- ・ボランティアスタッフ、ピア・サポーターが主体的に活動できるサロンの運営

「がん総合相談に携わる者に対する研修事業」における研修支援に係る意見交換会—県ピアサポーター事業概要—

令和元年8月22日
疾病対策課

1 研修支援希望の主旨

今後、埼玉県がんピアサポーターの養成研修会を開催したいと検討しているため、その研修会の企画や準備に支援いただきたくご相談するものです。

2 県の現状

(1) 埼玉県がんピアサポーター

県が開催した養成研修会の受講を修了した方を登録し、活動いただいている。

平成25年度に21名を養成、平成26年度に19名を養成した。(計40名)

8月末現在での登録人数は19名です。

(2) 活動内容

ピアサポート相談：埼玉県立がんセンターにおいて、週3回相談活動

埼玉医科大学国際医療センターにおいて、月2回相談活動

がんワンストップ相談：就労経験のあるサポーターが、がん経験者として月2回相談に従事。

他に、患者サロンでの活動や、講演会の講師等で活躍している。

(3) 養成研修会

平成25年度及び平成26年度に各1回ずつ開催した。

9:30~16:30(2日間)、13:00~16:30(3日間)

県がプログラムの検討や講師の調整をした。

平成24年度厚生労働省委託事業「がん総合相談に携わる者に対する研修プログラム策定事業」のテキストや他県の開催内容等を参考にした。

(4) フォローアップ研修会

年に3回、外部講師を迎えて、登録のピアサポーターを対象に開催し、活動の振り返りや講義受講などにより、スキルアップを図っている。

(5) その他

埼玉県がん対策推進計画(平成30年度~令和5年度)において、ピアサポーターによる対応可能な相談支援センターを、現在の2拠点病院からすべての拠点病院(13病院)を目標としている。

岩手県のがん患者に対するピア・サポートの取組状況

1 これまでの取組状況

- ・(平成27年度)患者会「ペイシェントアクティブびわの会」が、いきいき岩手支援財団の助成を受け「がんピア・サポーター養成講座」を開催(参加者31名)

日 時：(前期)平成27年9月5～6日 (後期)平成28年2月20～21日

場 所：県立中部病院講堂

対象者：①がん体験者や家族(遺族含む)

②自分の体験を生かし、仲間であるがん患者や家族を支援する意思のある方

内 容：がんの基礎知識、ロールプレイ

⇒ 養成されたピアサポーターが、県立中部病院(がん情報サロン「虹」)で月4回ボランティア活動を行っている。

- ・(平成29年度)「ピアサポーターフォローアップ講座」開催(総参加者数114名)

日 時：平成29年 ①6月24日 ②7月15日 ③8月11日 ④9月23日

⑤10月7日 ⑥11月25日

場 所：さくらホールまたは県立中部病院

対象者：がんピア・サポーター養成講座修了者等

- ・(平成30年度)県が開催した「がん患者・家族会学習会・情報交換会」において、ピアサポート活動についての事例発表及びグループワークを実施

2 今後の取組予定

現在、国においてサポーター養成プログラムの改訂や、都道府県に対する支援の検討が進められていることから、その動きも踏まえ検討を進めていく。

がん患者サロン運営者会議の経緯・目的



がんピアサポーター養成研修会
がんピアサポーター対策研修会
(H21~26年度)

*ならのがん対策
県民提案事業
(H25~27年度)

ピアサポーター意見交換会
(H26~27年度:
4回実施)

がん患者サロン
運営者会議
(H28年度~実施)

がんピアサ
ポーター
養成研修会
(R元年度)

*がん患者等に対する支援を
行っている団体等を対象に
事業募集し、その活動に助成
(1団体50万円を上限)

- がんピアサポーター研修修了者数
男性:10名 女性:38名 計:48名
H21年度:11名(男性:2名、女性:9名)
H23年度:22名(男性:6名、女性:16名)
H25年度:15名(男性:2名、女性:13名)



- ピアサポーターの声を集約
・「運営者が誰かわからない」
・ピアサポーターが考えたサロ
ンでできる工夫について

- 各拠点病院等のサロン
運営の好事例や課題など
を共有する場として、
**がん患者サロン運営者会議
を開催!**

○がん患者の立場から患者
さんや家族の様々な悩み
や不安を共感しながらサ
ポーターとする人材として養
成。
*20名程度養成予定

意見を受けて



- 各拠点病院等へ提案・改善
患者サロンをピアサポーター
と連携し実施することを全
拠点病院等に確認。
全拠点病院等でサロンの責
任者・担当者を決める。
各病院にピアサポーターを交
えて運営会議を実施すること
を提案し承諾を得る。
意見交換会の声を集約した
、「患者・家族の声等につ
いて」を各拠点病院等へ通知。
- 拠点病院では、よ
り良いサロンの
運営に向けて、各
拠点病院等のサロ
ン責任者・担当者
とピアサポーター
が前向きに意見交
換を実施。



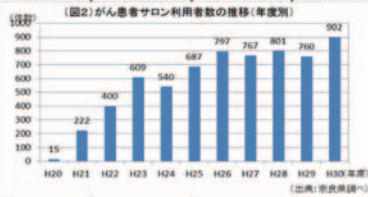
平成30年6月現在

■がん患者サロンの経過

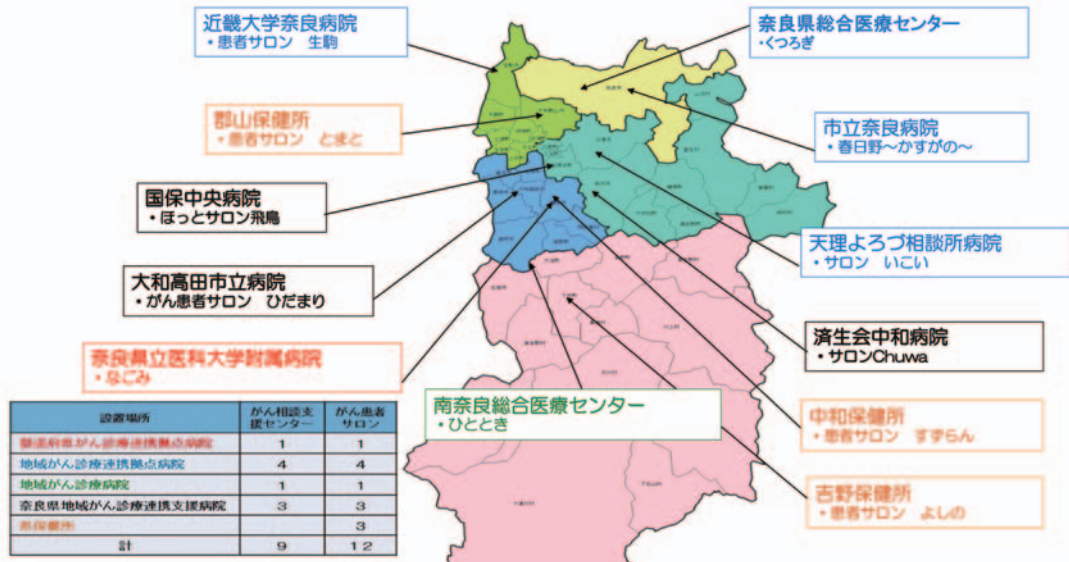
第3期奈良県がん対策推進計画 がん患者等への支援 (1) 相談支援及び情報提供

●めざす姿 すべてのがん患者やその家族が、不安、悩み、疑問に対して、いつでも身近なところで、必要な情報を受け取ることができ、その悩みや疑問が軽減している。

実施主体	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
国保中央病院	15人	156人	156人	156人	68人	87人	72人	53人	55人	47人	57人
奈良県総合医療センター		66人	73人	76人	61人	96人	209人	137人	105人	84人	101人
奈良県立医科大学附属病院			95人	166人	156人	166人	160人	133人	184人	174人	214人
天理よろづ相談所病院			76人	133人	85人	77人	60人	71人	85人	77人	98人
市立奈良病院				68人	68人	82人	111人	89人	111人	123人	178人
近畿大学医学部奈良病院					73人	113人	109人	104人	100人	64人	67人
済生会中和病院							12人	45人	21人	32人	54人
大和高田市立病院								49人	58人	74人	57人
奈良県総合医療センター									2人	32人	8人
吉野保健所				10人	43人	35人	32人	30人	26人	10人	18人
郡山保健所						32人	32人	28人	13人	16人	18人
中和保健所								16人	26人	27人	31人



■がん相談支援センター・がん患者サロンの設置状況



◆平成25年度 奈良県がんピアサポーター養成研修カリキュラム

第1日 平成25年9月3日（火）

	時間	プログラム内容と目的	進行・担当
	10:00～ 10:30	研修プログラムオリエンテーション 【目的】この研修プログラムの目的、スケジュールについてのオリエンテーションや研修参加者の自己紹介を行います。	事務局
①	10:30～ 12:00	がん対策について 【目的】「がん対策基本法」成立の経緯等の国のがん対策と、「第2期奈良県がん対策推進計画」の策定等、奈良県におけるがん対策の現状について学びます。	県保健予防課 参事 石井 佳世 県健康づくり推進課 係長 森本 めぐみ
②	13:00～ 14:00 14:10～ 15:10 15:20～ 16:30	がんの基礎知識 【目的】日本人に多いがん（特に五大がん）に関する基礎知識（統計、原因、経過、診断及び治療方法などの概要）を学びます。	奈良県立医科大学 放射線腫瘍医学講座 教授 長谷川正俊 先生

第2日 平成25年9月12日（木）

番号	時間	プログラム内容と目的	進行・担当
③	9:30～ 11:00	医療機関がピアサポーターに望むこと 【目的】ピアサポーターと共に患者相談を行うことになる医療機関（拠点病院等）が、ピアサポーターに対して期待する役割などについて学びます。	県立奈良病院 相談支援センター 看護主査 松原 操 氏
④	11:10～ 12:00	先輩ピアサポーターの活動報告 【目的】先輩ピアサポーターから、現在の活動状況とピアサポーターとしての心構えについて学びます。	がんピアサポーター
⑤	13:00～ 14:30	精神腫瘍学について 【目的】がん患者の心理的反応や心のケアについて学びます。	奈良県立医科大学附属病院 緩和ケアセンター長 四宮 敏章 先生
⑥	14:40～ 16:10	緩和ケアについて 【目的】緩和ケアの概念や緩和ケアの受け方、受ける時期について学びます。	国保中央病院 緩和ケア長 徳岡 泰紀 先生
⑦	16:15～ 17:00	緩和ケア病棟「飛鳥」の説明、見学	国保中央病院 看護部長 河野 弥生 氏

第3日 平成25年9月18日（水）

番号	時間	プログラム内容と目的	進行・担当
⑧	9:30～ 10:00	個人情報の取り扱いについて 【目的】ピアサポーターとして活動する場合、患者の個人情報に触れる機会も多々あるため、県で定めている個人情報保護に関する規定について学びます。	県総務課 主任主事 金山 真絵
⑨	10:00～ 11:00 11:00～ 12:00	より良いコミュニケーションのために	
⑩	13:00～ 14:00 14:00～ 15:00 15:00～ 16:00	カウンセリングの実際 （講義～ロールプレイ）	関西学院大学 人間福祉学部 准教授 梓川 一 先生
⑪	16:10～ 16:30	まとめ 【目的】研修会全体を振り返り、研修に対する要望、今後のピアサポート活動に生かしていきたいこと等について意見交換を行います。	事務局
	16:30～ 17:00	修了式	事務局

奈良県医療政策部保健予防課

鹿児島県のがん患者ピアサポーターの状況（令和元年9月20日時点）

1 現状

県ではこれまで、がん患者ピアサポーターの養成に関する事業はなく、令和元年度にNPO法人がんサポートかごしまと協働でピアサポーター養成を開始することとしている。

NPO法人がんサポートかごしまの取組として、平成23年度からピアサポーター養成講座を実施し、これまでに61名の方が講座を受講されている。

2 県内の状況

病院の種類	病院数	患者サロン
都道府県がん診療連携拠点病院	1	1
地域がん診療連携拠点病院	4	4
特定領域がん診療連携拠点病院	1	1
地域がん診療病院	6	6
県がん診療指定病院	13	3

3 課題

- ・ ピアサポーターとして活動している人が少ない。
- ・ NPO法人がんサポートかごしまの取組でピアサポーターの養成をしているが鹿児島市での開催に留まっている。
- ・ 継続したピアサポーターの養成が必要。

令和元年度がん患者ピアサポーター養成の事業について（令和元年9月20日時点）

（NPO 共生協働かごしま推進事業）

1 概要

(1) 目的・必要性

がん患者ピアサポーター養成講座及びがん患者が集う「がん患者サロン」における実地研修により新たなピアサポーターを養成するとともに、NPO法人がんサポートかごしまによる「がん患者サロン」へのピアサポーターの派遣体制の整備により、がん患者とその家族を支援する。

(2) 事業内容

- ① 鹿児島県内3か所において、各地域の医療機関や行政と協働し「ピアサポーター養成講座」を実施
- ② 養成されたピアサポーターを対象に、がん患者サロンにて実地研修を実施
- ③ そのサロンへピアサポーターを派遣する体制を整える。

(3) 事業計画

- ① 県民健康プラザ鹿屋医療センター（地域がん診療病院）
研修会：令和元年9月27日（金）

実地研修：令和元年11月28日（木）、12月19日（木）

② 県立大島病院（地域がん診療病院）

研修会：令和元年10月30日（水）

実地研修：令和2年1月10日（金）、2月14日（金）

③ 済生会川内病院（地域がん診療連携拠点病院）

研修会：令和元年11月24日（日）

実地研修：令和2年1月25日（土）、2月22日（土）

(4) 研修プログラム

- ① がん治療についての基礎知識
- ② ピアサポーターの役割について
- ③ ピアサポーターとしてのコミュニケーションスキル
- ④ がん患者サロンでの取組みについて
- ⑤ ロールプレイ（起こりうる事例と対応方法について）

2 委託先

NPO 法人がんサポートかごしま

3 事業費

1,999 千円（県 10/10）

4 相談したい内容

- ・ 研修資材の提供、使い方
- ・ 参加者募集の方法（他県での事例等）
- ・ 継続的なピアサポーターの派遣に向けた病院との調整、協働体制の作り方
- ・ ピアサポーター養成後の登録更新制度、養成後の取組の事例
- ・ フォローアップ研修の時期
- ・ 患者サロン以外にピアサポーターの活躍の場

長崎県のがんの医療圏の概要

位置：九州の西北部に位置し、離島、半島が多い

人口：約 132.6 万千人（本土地域 約 121.8 万人 離島地域 約 10.8 万人）

令和元年 9 月 1 日現在

医療施設：長崎市、佐世保市に大規模病院が集中し、離島地域は、長崎県病院企業団

（※ 1）の病院ががん医療の中核を担っている。

※ 1 長崎県病院企業団：県と島原地域、五島地域、対馬地域及び壱岐地域の市町が一体となって病院を経営することにより、県民の健康な生活を確保することを目的として設立された地方自治法上の特別地方公共団体（一部事務組合）。

本県の二次医療圏は、本土地域に 4 か所、離島地域に 4 か所、計 8 か所です。現在、本土地域の二次医療圏の 6 病院が、がん診療連携拠点病院（以下、「拠点病院」という。）の指定を受けています。（1 病院 → 都道府県拠点病院、5 病院 → 地域拠点病院、計 6 病院）

○拠点病院の整備状況

〔都道府県拠点病院〕（長崎医療圏）長崎大学病院

〔地域拠点病院〕（長崎医療圏）長崎みなとメディカルセンター、

日本赤十字社 長崎原爆病院

（佐世保県北医療圏）佐世保市総合医療センター

（県央医療圏）長崎医療センター

（県南医療圏）長崎県島原病院

本土 2 つの 2 次医療圏には、拠点病院の指定は受けていないものの、「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針」（以下、「整備指針」という。）の要件をほぼ満たす 2 病院があり、長崎県独自でがん診療連携推進病院（以下、「推進病院」という。）に指定しています。

○推進病院の整備状況

（佐世保県北医療圏）佐世保中央病院

（県央医療圏）諫早総合病院

さらに 4 つの離島医療圏には、県がん対策推進計画において、各離島の 2 次医療圏につき 1 病院を「がん診療離島中核病院」（以下、「離島中核病院」という。）として位置づけ、本土地域の拠点病院、推進病院と連携し、離島地域のがん診療の質の向上に努めています。

○離島中核病院の整備状況

（五島医療圏）長崎県五島中央病院

（上五島医療圏）長崎県上五島病院

（壱岐医療圏）長崎県壱岐病院

（対馬医療圏）長崎県対馬病院

また、長崎県がん診療連携協議会を設置し、県内のがん診療に関する情報収集・発信、院内がん登録等のデータ分析・評価、県レベル研修会の企画・実施、地域連携クリティカルパスの推進等、県内のがん診療全般について協議しています。長崎大学病院に設置し、全拠点病院、推進病院が参加しています。

さらに、地域におけるがん診療に関する研修会の計画・実施、地域の医療機関や介護施設等との連携等により、地域全体のがん医療水準の向上を図ることを目的に、空白の医療圏域を含めた「地域がん診療連携協議会」を設置しています。

○地域がん診療連携協議会

長崎地域……………長崎みなとメディカルセンター、長崎原爆病院

佐世保県北地域……佐世保市総合医療センター、佐世保中央病院

県央地域……………長崎医療センター、諫早総合病院

県南地域……………長崎県島原病院

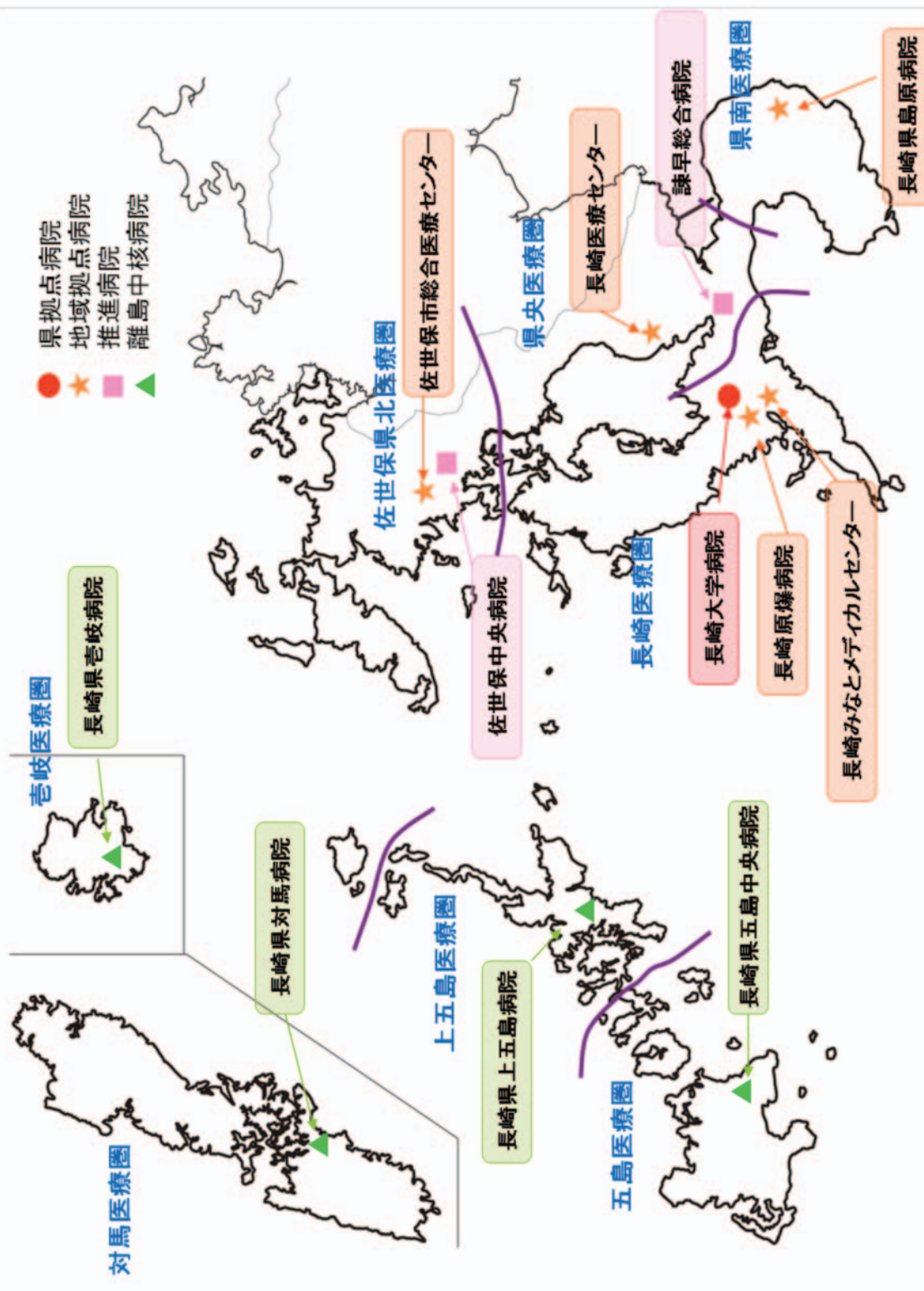
五島・上五島地域…長崎みなとメディカルセンター、日本赤十字社 長崎原爆病院

長崎県五島中央病院と長崎県上五島病院との共同運営

壱岐・対馬地域……長崎医療センター

長崎県対馬病院、長崎県壱岐病院と共同運営

長崎県の二次医療圏域とがん診療連携拠点病院



長崎県がん診療連携協議会

長崎県がん診療連携協議会・幹事会

がん診療連携拠点病院(国指定)
がん診療連携推進病院(県指定)
【事務局】
長崎大学病院

県医師会
県歯科医師会
県薬剤師会
県看護協会
県

ワーキンググループ



長崎大学病院 相談支援WG長

サポートブック・広報 subWG
メンバー 8名
5拠点病院
1推進病院

研修企画 subWG
メンバー 5名
4拠点病院
1推進病院

Q&A subWG
メンバー 5名
3拠点病院
1推進病院

■情報共有・活動実績

- ・2007年11月、メーリングリストを立ち上げ、情報共有・交換開始
- ・相談支援部門実務者会議を開催。協力体制等について検討(年1回)
- ・相談支援ワーキンググループ研修会開催(年2回)
- ・あじさいネットを利用したTV会議(年4回)

■連携内容

- ・実務者会議、研修会等による相談員間に見える関係構築
- ・相談支援WGにサブWGを編成。活動の活発化、相互連携・協力体制の強化を図る
- ・就労支援については、各病院とハローワークの連携が図れるよう基幹HWと事務局(大学)が協力し、就労ナビゲーター未配置地区のセンターでも就労支援が実施できる連携体制を構築
- ・ゲノム医療については事務局が問い合わせ窓口となり、他の拠点病院、推進病院との連携体制を構築中

熊本県における ピアサポート支援の現状

令和元年11月5日

熊本県がん相談員サポートセンター

がん診療連携拠点病院(18拠点病院)

- ・自施設でのがんサロンの支援(18/18)
運営等(18/18)、がんサロンファシリテーター(7/18)
- ・がんサロンネットワーク熊本 連絡担当者(17/18)
- ・がんピアおしゃべり相談室の支援(3/18)
ピア対応困難なときの対応、ピアレビュー
- ・がんピアサポートセミナーファシリテーター(7/18)
- ・地域がんサロンの支援(2/18)

熊本市 がん相談ホットライン

- ・日時:毎週月・木曜日
9:30~12:00 13:00~15:30
- ・場所:熊本市医療政策課
- ・対応:電話、面接
- ・専門相談員:がん経験者(1名)
(嘱託職員)

熊本県がん相談員サポートセンター(H27年~)

- ・がん専門相談員との連携と活動支援
- ・がん相談支援センターの広報・周知活動
- ・がんサロンの活動支援
- ・がんピアサポートの活動支援

がんサロンの活動支援

がんサロンネットワーク熊本（県内がんサロン30ヶ所）

※がん患者会「ひまわり」は入っていない

- ・会員の入会手続き、メール配信等の事務的支援
- ・理事会（1回/月）
- ・新しいがんサロン、世話人が不在のサロン、拠点病院からの支援がないがんサロンなどを訪問し運営上の問題点把握
- ・新規がんサロン立ち上げの支援
- ・外部からの依頼への対応（新聞等の取材、講師の依頼など）
- ・手記集「みんなの手記集 がんとともに生きる」作成・配布の支援
- ・広報活動（イベント、熊本県がん相談支援センターHP）

がんピアサポートの活動支援

- ・がんピアおしゃべり相談室の支援
- ・がんピアサポートセミナーの実施

がんピアおしゃべり相談室の活動支援

- ・ピアサポーターの派遣計画
- ・旅費・謝金手続き
- ・ピアレビュー（1回/月）
- ・勉強会/フォローアップ研修
- ・広報活動
（イベント・ホームページ）



【実施施設】

熊本赤十字病院（毎週水・金曜日）
熊本医療センター（毎月第1・2火曜日）
熊本大学病院（毎月第3木曜日）

【体制】

ピアサポーター6名
2名で相談者1名に対応

熊本のピアサポーター①

◆がんサロンの世話人(代表世話人・副代表世話人) 39名

- ・世話人不在 (3サロン/31サロン)
- ・世話人辞めたいが後継者がいない(4サロン?/31サロン)
- ・世話人になるための明確な要件は定まっていない
- ・院内サロンの場合... 医療者からの推薦 必ずしもピアサポートセミナーを受けているわけではない
(← ピアサポートセミナー受講を勧める テキスト DVD を渡す)
サロンのファシリテーターが医療者(8サロン/31サロン)

【問題点】

世話人の人選が難しい 世話人のスキルのばらつき

熊本のピアサポーター②

◆がんにピアおしゃべり相談室

ピアサポーター(ピアカウンセラー) 6名(うち世話人5名)

- ・ピアサポーターになるための要件が定まっている
- ・月に一度のピアレビューを行っている
- ・より高度なスキルが求められている
- 「これでいいの不安になるときがある。スキルアップがしたい。」
- 「モヤモヤがとれないときがある。ピアでないかわかってもらえないと思う。」

【問題点】

ピアのスーパーバイザーとなる人がいない
スキルにあったフォローアップが必要

がんピアおしゃべり相談室 ピアサポーター選定基準

- がん経験者またはその家族
- がんサロン等の運営、運営支援を行っている者、または十分な連携が期待できる者
- 県主催のがんピアサポーターセミナーを受講した者または県が指定するテキスト等を習熟した者
※推薦後、県が習熟度を面接にて把握する。
- 以下の事項を順守できる資質を有する者
 - 相手の話の耳を傾けること
 - 自分の意見を押しつけないこと
 - 質問返ししないこと
 - 個人情報を守ること
 - 診断や治療方針に関するアドバイスは行わないこと
 - 自分の名前、「がん経験者相談員」であることをはっきり伝えること
 - 相手に失礼にならない態度、服装を心がげること
 - 話の途中でがん相談員やその他の医療従事者の支援が必要な場合には速やかに引き継ぐこと

がんピアおしゃべり相談室 ピアサポーターになるまでの流れ

- 候補者に連絡
 - ②～⑤を経ての本人の意思と、県と関係者(協力病院担当者などの話し合いで正式に決まることを説明)
 - 研修テキスト・DVD/がんピアサポーター編で学習
 - ミーティング(ピアレビュー)への参加
 - ③④が終わることに意思の再確認と不安や問題点を尋ね、次の同席の日稽調整を行う。また、進捗状況をミーティングで共有し意見を聞く
 - 県との面談
 - ピアサポーターとして採用
(事務的な手続き)
 - ピアサポーター勉強会
 - ピアカウンセラーの心得、ピアカウンセラーの基本的なマナーと「報道相」
- がんピアおしゃべり相談室のピアサポーターへ

年度	実施日	セミナー名	参加者数	フォローアップ
H27年度～R01年度ピアサポートセミナー参加者	2月28日	がんピアサポートセミナー-基礎編	59	
	3月13日	がんピアサポートセミナー-実践編	74	133
	3月5日	がんピアサポートセミナー-基礎編	63	
H28	3月12日	がんピアサポートセミナー-実践編	45	108
	9月28日	がんピアサポートフォローアップ研修(※1)	18	147
H29	2月11日	H29知ってほしいがんサロンのこと(※2)	129	
	9月8日	H30知ってほしいがんサロンのこと	122	
H30	3月10日	がんピアサポート基礎セミナー(※3)	49	171
	10月19日	がんピアサポートセミナー-知ってほしいがんサロンのこと/みんなが話そう案	106	
R01	3月8日	がんピアサポートセミナー(予定)		

H29年度以降の変更点

【H29】
 (※1) フォローアップ研修開催
 ・ピアサポーターが悩んでいた(対象者)がんサロンの世話人
 がんピアおしゃべり相談室ピアサポーターがんにサロンに携わる医療者
 がんピアおしゃべり相談室ピアサポーターがんにサロンに携わる医療者
 (※2) 「知ってほしいがんサロンのこと」を始める
 ・がんサロンの参加者が増えない
 ・ピアサポーターになるためには、まずがんサロンに来てもらわなければならない(対象者)どなたでも

【H30】
 (※3) がんピアサポートセミナー-基礎セミナー開催
 ・ピアサポートを始めた方、経験の少ない世話人(対象者)がんサロンの参加者と医療者
 ⇒ピアサポーターでない(9名)
 経験の少ない世話人(4名)

平成27年度ピアサポートセミナー

【1日目】
がんピアサポート基礎セミナー
 日時：平成28年2月28日(日) 13時～16時
 場所：熊本大学医学部附属病院 山崎記念館1階 研修ホール
 <プログラム>
 1 主催者あいさつ
 2 がんに関する基礎知識
 ～がん細胞の特徴とがん治療センター～
 熊本大学病院 医学部がん診療センター 後藤一郎 先生
 3 ピアサポーターが知っておくべき心構え
 海野病院 医療福祉課 課長 藤田裕子 先生
 (休憩)
 4 ピアサポートについて
 事務局(ピアサポーター) がん相談センター がん相談 野田真由美 先生
 5 県のがんサロン等の紹介
 熊本市十津病院 診療科医長 藤田心雄士 永田 裕子先生
 熊本市にアンケート記入のご協力をお願いいたします。

【2日目】
がんピアサポート実践セミナー
 日時：平成28年3月13日(日) 10時～16時
 場所：熊本大学医学部附属病院 山崎記念館1階 研修ホール
 <プログラム>
 1 主催者あいさつ
 2 がんサロンの運営の基本的な留意事項
 フォローアップとローカル化 福生社(社)ピアカウンセラーの福生 麗子
 豊後国中央病院 ピアカウンセラー ナース 上原 弘美先生
 (休憩)
 3 講演「暮らしと心とこころ～福生社との経験を話して～」
 浄土真宗本願寺派福智寺 住職 長壽 白濁先生
 4 がん経験者相談員の活動紹介
 5 ピアカウンセラーのストレスマネジメント
 熊本赤十字病院 診療科医長 藤田心雄士 永田 裕子先生
 熊本市にアンケート記入のご協力をお願いいたします。

平成 28 年度 ピアサポートセミナー

【1日目】

がんピアサポート基礎セミナー

日時：平成29年3月5日(日) 10時45分～16時
場所：熊本大学医学部附属病院 山崎記念館1階 研修ホール

<プログラム>

- 主催者あいさつ
がんに関わるお話し
国立がん研究センター 腫瘍内科部長 堤 謙博 先生
- 「聞くことについて」
イエスタス心の病院 バストラルケア創始者兼理事
臨床カウンセラー 加藤 理人 先生
- ピアサポートとは何か
がんピアサポートの意義と役割
手塚かほか先生
がん相談センター がん相談センター がん相談 野田 真由美 先生

最後にアンケート記入のご協力をお願いいたします。

【2日目】

がんピアサポート実践セミナー

日時：平成29年3月12日(日) 10時45分～16時
場所：熊本大学医学部附属病院 山崎記念館1階 研修ホール

<プログラム>

- 主催者あいさつ
がん患者サロンを運営する上で大切にしていること
NPO法人がんサポートがこころ 理事長 三好 綾 先生
- (昼休み)
- ワークショップ＆ロールプレイ
ピアサポート実践～がんサポででのファシリテーション～
手塚かほか先生
がん相談センター がん相談センター がん相談 野田真由美 先生
- いよいよおがとろーがん患者の心の広がり
NPO 法人の活動につなぐ道 代表理事
がんサロンサポートワーク 副代表 高津 伸一 先生

最後にアンケート記入のご協力をお願いいたします。

平成 30 年度 ピアサポートセミナー

【1日目】

がんピアサポート基礎セミナー

日時：平成30年3月5日(日) 10時45分～16時
場所：熊本大学医学部附属病院 山崎記念館1階 研修ホール

<プログラム>

- 主催者あいさつ
がんに関わるお話し
国立がん研究センター 腫瘍内科部長 堤 謙博 先生
- 「聞くことについて」
イエスタス心の病院 バストラルケア創始者兼理事
臨床カウンセラー 加藤 理人 先生
- ピアサポートとは何か
がんピアサポートの意義と役割
手塚かほか先生
がん相談センター がん相談センター がん相談 野田 真由美 先生

最後にアンケート記入のご協力をお願いいたします。

【2日目】

がんピアサポート実践セミナー

日時：平成30年3月12日(日) 10時45分～16時
場所：熊本大学医学部附属病院 山崎記念館1階 研修ホール

<プログラム>

- 主催者あいさつ
がん患者サロンを運営する上で大切にしていること
NPO法人がんサポートがこころ 理事長 三好 綾 先生
- (昼休み)
- ワークショップ＆ロールプレイ
ピアサポート実践～がんサポででのファシリテーション～
手塚かほか先生
がん相談センター がん相談センター がん相談 野田真由美 先生
- いよいよおがとろーがん患者の心の広がり
NPO 法人の活動につなぐ道 代表理事
がんサロンサポートワーク 副代表 高津 伸一 先生

最後にアンケート記入のご協力をお願いいたします。

平成 29 年度 ピアサポートセミナー

【1回目】

がんピアサポートアドバイザー研修

平成29年9月28日(木) 11時～15時(10時半～受付)
講師 NPO法人支援会「心」理事長 野田 真由美 先生

時刻	内容
11:00	会場あいさつ オリエンテーション
11:05	お昼(12:00)
11:30	ピアサポーター研修 (お昼前・お昼後)
12:00	昼休み
13:00	ロールプレイ (10:00)
13:05	質疑・応答 (10:00)
13:10	ワークアウト (10:00)
14:30	アンケート (13:00)
15:00	会場あいさつ

【2回目】

がんピアサポートセミナー【令和元年度 1回目】

- ◆ 知って欲しいがんサロンのこと
対象者：がん患者・家族・がんサロンに関心がある方
講演：患者の意思決定に関する事
がんサロン紹介
- ◆ みんなで話そう会
がん種別サロン

熊本県内にあるがんサロン・患者会など

R01年11月現在

	がんサロンネットワーク熊本への加入	サロン名	設立年月	開催場所		活動内容	世話人(ピアサポーター)有:○、無:×
1	○	熊本がんサロン	H22年4月	熊本大学病院	国指定拠点	おしゃべり会	○
2	○	済生会がんサロン なでしこ	H23年2月	済生会熊本病院	国指定拠点	数回レクチャー・イベント /おしゃべり会	×
3	○	長嶺がんサロン CROSS(クロス)	H23年1月	熊本赤十字病院	国指定拠点	おしゃべり会/医師参加	○
4	○	二の丸がんサロン	H23年4月	国立病院機構熊本医療センター	国指定拠点	毎月レクチャー・イベント /おしゃべり会	○
5	○	荒尾がんサロン ひまわり	H24年7月	荒尾市民病院	国指定拠点	数回イベント/おしゃべり会	○
6	○	八代がんサロン 秋桜cosmos	H22年11月	熊本労災病院	国指定拠点	数回レクチャー・イベント /おしゃべり会	○
7	○	くま川がんサロン	H22年12月	人吉医療センター	国指定拠点	毎月レクチャー・イベント /おしゃべり会	×
8	○	森都がんサロン ほほえみ	H23年9月	くまもと森都総合病院	県指定拠点	おしゃべり会	○
9	○	がんサロン よかここネット	H21年4月	熊本地域医療センター	県指定拠点	毎月レクチャー・イベント /おしゃべり会	○
10	○	くまちゅうがんサロン クローバー	H23年3月	熊本中央病院	県指定拠点	毎月レクチャー・イベント /おしゃべり会	○
11	○	大江がんサロン みどり	H24年1月	大腸肛門病センター高野病院	県指定拠点	毎月レクチャー/ おしゃべり会/ミニライブ	○
12	○	宇城がんサロン ～ほっとカフェ～	H25年2月	熊本南病院	県指定拠点	おしゃべり会	○
13	○	山鹿がんサロン	H23年7月	山鹿市民医療センター	県指定拠点	おしゃべり会	○
14	○	がんサロン再春	H24年4月	熊本再春医療センター	県指定拠点	おしゃべり会	○
15	○	がんサロン 未来へ	H25年4月	国保水俣市立総合医療センター	県指定拠点	数回レクチャー・イベント /おしゃべり会	○
16	○	がんサロン天草 たんぼほの会	H24年1月	天草中央総合病院	県指定拠点	数回レクチャー・イベント /おしゃべり会	○
17	○	がんサロン ふらっと	H28年9月	天草地域医療センター	県指定拠点	毎月レクチャー/おしゃべり会	○
18	—	がん患者会 ひまわり	H22年12月	熊本総合病院	県指定拠点	毎回レクチャー/おしゃべり会	×
19	○	熊本市市民病院がんサロン もくせい	H23年1月	熊本市市民病院	非拠点	数回イベント/おしゃべり会	○
20	○	有明がんサロン 樹の家	H23年6月	西原クリニック 複合介護施設 風の杜 ふれあいホール	非拠点	おしゃべり会/医師参加	○
21	○	こうしがんサロン かすみそう	H29年10月	合志第一病院	非拠点	毎月レクチャー/おしゃべり会	○
22	○	上天草がんサロン アウアマリン	H23年4月	上天草総合病院	非拠点	数回イベント/おしゃべり会	○
23	○	阿蘇がんサロン 笑がお	H30年4月	阿蘇医療センター	非拠点	毎月レクチャー/おしゃべり会	○
24	○	働き&子育て世代のための がんサロン	H24年4月	ウエルバルくまもと	行政機関	おしゃべり会	○
25	○	なんかんつば会	H28年10月	南関町交流センター	行政機関	おしゃべり会	○
26	○	みふねがんサロン いきいき茶論	H23年8月	御船町保健センター	行政機関	毎月レクチャー・イベント /おしゃべり会	○
27	○	グリーンケアサロン熊本	H26年1月	ウエルバルくまもと	行政機関	おしゃべり会	○
28	○	金峰山がんサロン できたしこポチポチいこう楽遊彩	H22年11月	熊本市西区	個人宅	おしゃべり会	○
29	○	出水南がんサロン	H24年7月	熊本市中央区	個人宅	おしゃべり会	○
30	○	菊池がんサロン しいの木	H23年1月	菊池市七城町	個人宅	数回イベント/おしゃべり会	○
31	○	血液疾患患者と家族晴れの会	H18年5月	玉名市宮原	個人宅	おしゃべり会	○
32	○	産山がんサロン		休止中			

日本サイコオンコロジー学会 ピアサポーター養成にかかるヒアリング

日時：2019年12月3日 13:00～15:00

場所：島根大学医学部附属病院 外来診療棟3階 ほっとサロン

○ピアサポーター養成研修

第1回 平成24年度 島根県立大学に委託

第2回 平成25年度 //

第3回 平成28年度 島根大学がん患者・家族サポートセンターにて実施

・市民講演会・説明会

講演「ピアサポートの意義」（講師：NPO法人ミーネットより）

取組み報告

ピアサポーターリレートーク

・第1回研修 講義「ピアサポーターの意義」「がんと言われたら」「看護師の活動」
「がん相談支援センター紹介」

・第2回研修 講義「ピアサポーターに知って欲しい情報」「コミュニケーション」
グループワーク「聴いてもらう体験、聴く体験をする」
ロールプレイ

・実習「ピアサポーター相談会に参加しよう」

○フォローアップ研修

・平成26年度

相談者アンケート結果報告

講義と演習（講師：NPO法人ミーネットより2名のスーパーバイザー）

「心構え」「実際の事例より」「ロールプレイ」

・平成27年度

講義：がん治療の進歩（市民公開講座DVD視聴）

相談会経過報告・意見交換会

講義と演習 「質の高いピアサポーターを目指して」ロールプレイ

・平成28年度 ※養成研修と兼ねる

・平成29年度

講義：「プレジジョン・メディシン」「看護師の活動」「コミュニケーション」

ロールプレイ

・平成30年度（企画からピアサポーターが参加）

講義「第3期島根県がん対策推進計画の概要」

「ピアサポーターに必要な基礎知識」「コミュニケーション」

ロールプレイ

意見交換会

・令和元年度

講義：「しまねのがん対策推進計画について」

「自分も、相手も、大切にするために」

「コミュニケーション」

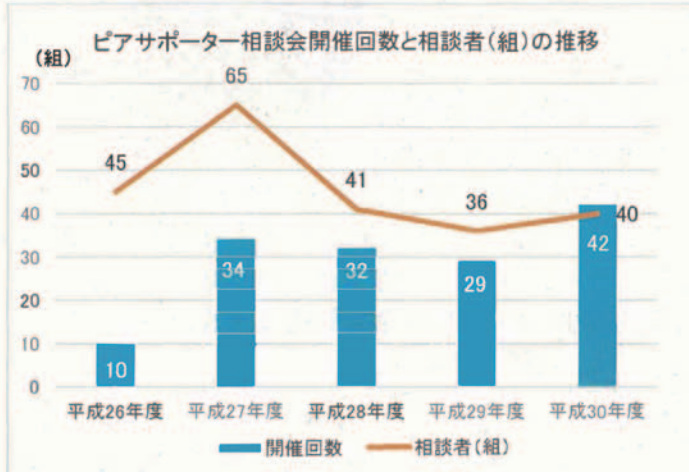
ロールプレイ

グループワーク：「ピアサポート活動での困り毎」

平成 30 年度島根県がんピアサポーター相談会開催状況報告

島根大学医学部附属病院
がん患者・家族サポートセンター

1. がんピアサポーター相談会 開催状況



*平成30年度 年間42回開催のうち 相談者あり・・19回
相談者なし・・23回

〈 がんピアサポーター数 〉

25名 (東部17名 西部8名)

〈 開催病院数 〉

- ・がん診療連携拠点病院 5病院
- ・がん診療連携推進病院 1病院
- ・がん情報提供促進病院 4病院

〈 開催時間 〉

・午前又は午後開催 いずれも2時間程度

〈 開催場所 〉

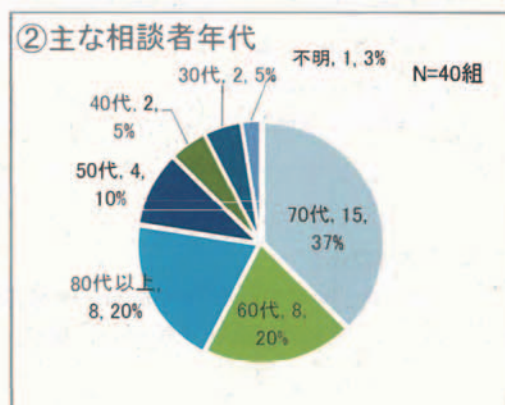
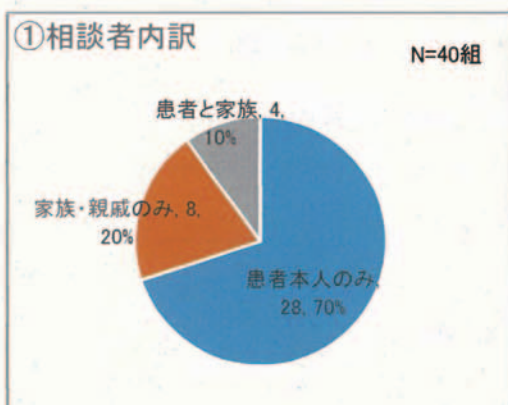
- ・玄関ホール ・院内相談室
- ・病院講堂など

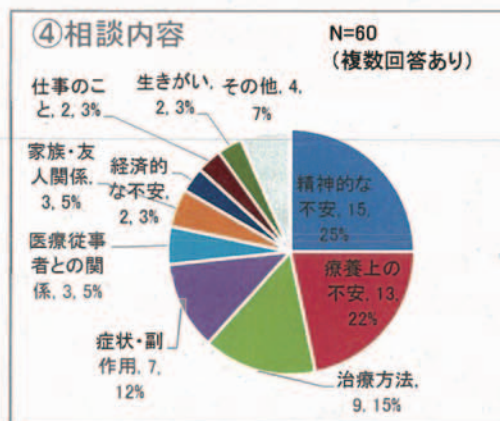
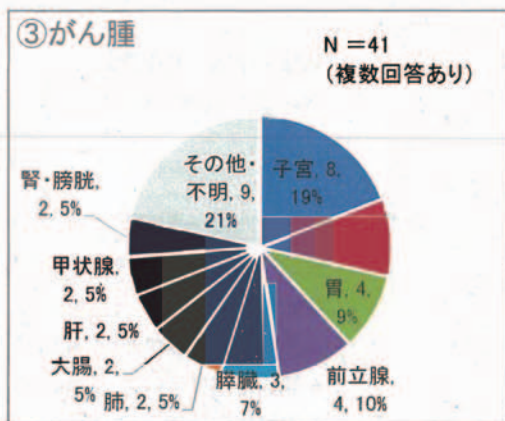
〈 広報 〉

- ・市報 ・有線 ・院内掲示 ・院内モニター
- ・新聞 ・イベント時にチラシ配布 ・島根県や開催病院ホームページや病院ブログ掲載
- ・医療者から紹介
- ・ティッシュ配布 ・駅通路への掲示など

2. ピアサポーター相談記録より

(1) 主な相談者について





(2)ピアサポーターの対応

- ・傾聴、共感
- ・情報提供(がん相談支援センター、サロン、次回相談会開催日の案内など)
- ・相談員との連携

3. 相談者アンケートより

- ・話をしてよかった
- ・心が落ち着き安心した
- ・ちょっとした話をきいてもらえるのが今はほっとします
- ・元気をもらった
- ・来れるときには利用したい

4. 相談会を振り返って ～ピアサポーターの感想(相談記録・振り返りの会より)

- ・広報がもっと必要ではないか(相談会利用者がいない)
- ・私が相談者の話された治療法をしていなくて戸惑ったが、サブの人がその治療をしていたので話を安心して継続することができた。
- ・すでに病院の相談員さんにつながっているとき、安心して話を聴くことができた。

5. 平成 30 年度の試み

- ・ピアサポーターフォローアップ研修会の参加対象者を拡大
- ・ピアサポーター有志によるピアサポーター活動を考える会の発足

沖縄県地域統括相談支援センター 概要

名 称：沖縄県地域統括相談支援センター
設 立 日：平成 23 年（2011 年）10 月 1 日
予 算：沖縄県がん医療連携体制推進事業（地域統括相談支援センター設置事業）
国庫補助あり 補助率 1/2（厚生労働省健康局都道府県がん対策推進事業）
所 在 地：〒903-0215 西原町字上原 207 番地 琉球大学医学部附属病院 3 階
目 的：（1）がん相談支援センターと連携した切れ目のない相談支援体制の推進
（2）がんピア・サポートの実施及びがんピア・サポーターの育成
人員構成：センター長（兼任）
がんピア・サポーター 4 名（招聘看護師 3 名、ボランティア 1 名）
事務員 1 名

事業内容：

1.がんピア・サポーター（がん体験者）による相談対応

ピア・サポーターが患者さんやそのご家族が抱えている不安や心配ごとについて話しを聞いたり、自身の経験に基づいたアドバイスをするなど、がんに関する相談業務（対面・電話相談）を行っている。予約については直接来所、または電話やメールでも受け付けている（空いてる場合は直ぐに対応も可能）。

- （1）来所 琉球大学医学部附属病院 3 階（がんピアサポート相談室）
がんピア・サポーター在室時間 火曜日 13 時～16 時
木曜日 10 時～14 時
水・金曜日 13 時～17 時

（2）TEL 098-942-3407 FAX 098-942-3408

（3）メールアドレス info@gansoudan-okinawa.jp
ホームページ <http://www.gansoudan-okinawa.jp>

2.がんピアサロン

- （1）がんによって不安を感じて生活される方や、そのご家族が集う場として「がんピアサロン」を院外で年 2 回開催。同じような立場の人による支援は、気持ちの共有や現実的なアドバイスなど様々な利点がある。「誰に何を相談していいかわからない」「頭の中が真っ白…」「家族ががんと診断され、どう接していいかわからない」「同じ病気の人のお話を聞いてみたい」そんな想いを自由に話し、聞く場である。
- （2）がんピアキャラバン（年 1 回開催／離島やへき地を含む沖縄全域に出向き、地域のがん関係者等との協働によりがん患者支援を行うもの）

(3) 県内各拠点病院院内がん患者サロン（年6回程度）

*開催場所

- ・県庁1階ロビー
- ・石垣市立図書館
- ・宮古島市働く女性の家ゆいみなあ
- ・公立久米島病院
- ・イオンモール沖縄ライカム他

3.がんピア・サポーターの人材育成

(1) がんピア・サポーター養成講座の開催

平成23年度（2011年度）からがん体験者、そのご家族やご遺族を対象に、がんピア・サポーターを養成するための講座を開催（期間2～3日）している。これまでに8回開催し、すべての課程を修了した方は80名。それぞれがピア・サポーターとして様々な患者会や各拠点病院内患者サロン等で活動している。

*受講条件

- ①がん患者、がん患者のご家族・ご遺族。
- ②最終治療後2年以上が経過して、現在病状が安定されている方。
- ③全日程参加できる方。
- ④なおかつ当センターの登録がんピア・サポーターとなって活動できる方。

*講座内容

- ①6講義（「ピア・サポートとは」「がんの基礎知識」他）
- ②ワークショップ（体験を語る、ロールプレイの振り返り）
- ③ロールプレイ（模擬相談演習）

(2) がんピア・サポーターフォローアップ研修会の開催

養成講座を修了された方、また以前より日常的に患者会などでピア・サポート活動をしている方を対象に開催（期間1日）している。研修では養成講座で学んだ基礎をもう一度復習し、さらにステップアップすることが目的。

4.がんに関する情報提供

各種がんに関する情報を臓器別に冊子にして必要な方へ提供している。また当センター主催のイベントの際は情報コーナーを設け、がん情報が自由に手に取れるようになっている。

*具体的には

- (1) NCCN ガイドライン (NCCN Clinical Practice Guidelines in Oncology™) 日本語版
- (2) 米国国立がん研究所が配信している包括的がん情報データベース PDQ® (Physician Data Query) の日本語版
- (3) 国立がん研究センターがん対策情報センターで発行している「がんの冊子」を印刷、冊子化して手渡している。

沖縄県地域統括相談支援センター(院内設置型)

沖縄県がん医療連携体制推進事業(地域統括相談支援センター設置事業)において、2011年10月1日県がん診療連携拠点病院である琉球大学医学部附属病院内に設立。

- 事業実施目的**
- ・がん相談支援センターと連携した切れ目のない相談支援体制の推進
 - ・がんピア・サポートの実施およびがんピア・サポーターの育成

沖縄県ピア・サポート事業

琉球大学医学部附属病院への委託

沖縄県地域統括相談支援センター

センター長(がんセンター長兼任)事務員1名
ピア・サポーター(招聘看護師3名、ボランティア1名)

*がんセンターが協力・後方支援

相談対応、研修・サロン運営、サポーター育成、情報提供など



活動の場として



県がん診療連携拠点病院、地域がん診療連携拠点病院
地域がん診療病院、その他の医療機関
サロン各開催場所(県庁1階ロビー、石垣市立図書館、
宮古島市働く女性の家ゆいみなあ、ゆがふいんおきなわ、
イオンモール沖縄ライカムなど)

ピア・サポート事業3つの柱

患者や家族が
安心して利用できる

ピアサポーターが
安心して活動できる

専門職や行政関係者が
安心して紹介できる

「体験を共有し、ともに考える」

患者・家族、医療者からも
信頼され利用される
ピアサポート活動の場を創る

- *がんピア・サポーターの育成として
- ・養成講座(必要なスキルを学ぶ)
 - ・フォローアップ研修会(スキルアップを図る)

沖縄県地域統括相談支援センター登録がんピア・サポーター

1.目的

がんピア・サポーターの活動を支援し、よりよい活動と質の向上を目的としています。
無理のない範囲で、持続的な活動をお願いします。

2.登録資格

当センターが主催するがんピア・サポーター養成講座を全日程修了することとします。

3.活動内容

- (1) 当センター主催のイベント等でのピア・サポート活動（準備・片付けを含む）
- (2) 各医療施設や患者会でのピア・サポート活動
- (3) 普及啓発活動やPR活動
- (4) その他

4.今年度の活動内容

(1) がんピアサロン（年2回）

語り合うことで不安や気持ちを分かち合い、情報を交換しながら病気に対する不安軽減につなげる。

- ①令和元年 7月27日（土）ちゃたんニライセンターカナイホール（ミニ音楽会）
／参加者 16名
- ②令和元年 11月9日（土）浦添てだこ広場（リレー・フォー・ライフ内）
／参加者 11名

(2) がんピアキャラバン（年1回）

地域のがん関係者等との協働により、がん患者支援を行う。

- ①令和元年 12月20日（金）北部地区医師会病院／参加者 17名
- ②令和2年 2月21日（金）公立久米島病院開催予定

(3) 県内各拠点病院 院内患者サロン（年6回程度）拠点病院より依頼 ピア・サポーター活動の場の創出を図る。

那覇市立病院 那覇がん患者ゆんたく会／県立中部病院 中部地区ゆんたく会

- ①平成31年 4月23日（火）県立中部病院／参加者 16名
- ②令和元年 5月15日（水）那覇市立病院／参加者 13名
- ③令和元年 7月16日（火）県立中部病院／参加者 16名
- ④令和元年 8月21日（水）那覇市立病院／参加者 11名

- ⑤令和元年 9月26日(木) 県立中部病院／参加者 24名
- ⑥令和元年 11月28日(木) 県立中部病院／参加者 21名
- ⑦令和2年 1月23日(木) 県立中部病院参加予定
- ⑧令和2年 3月18日(水) 那覇市立病院参加予定

(4) がんピアサポーターフォローアップ研修会／交流会(年1回)

ピアサポーター間の親交を深めるだけでなく、活動意欲の維持、共有を図る。

- ①令和元年6月8日(土) 宮古島市働く女性の家 ゆいみなあ／参加者 17名

(5) その他

ピアサポート事業を広く周知するための普及活動として、医療機関への説明会を行う。

- ①令和元年12月20日(金) 北部看護学校／参加者 学生 250名、教職員 29名

5. 前年度の活動実績

(1) がんピアサロン

- ①平成30年11月10日(土) 浦添市てだこ広場(リレー・フォー・ライフ内)／参加者 8名
- ②平成31年 1月20日(日) 琉大病院 管理棟和室(ヨガ体験)／参加者 9名

(2) がんピアキャラバン

- ①平成30年10月6日(土) 石垣市立図書館／参加者 21名

(3) 県内各拠点病院 院内患者サロン

那覇市立病院 那覇がん患者ゆんたく会(計6回参加)

- ①平成30年 5月16日(水)／参加者 22名
- ②平成30年 6月27日(水)／参加者 15名
- ③平成30年 7月18日(水)／参加者 12名
- ④平成30年 8月15日(水)／参加者 12名
- ⑤平成30年10月17日(水)／参加者 9名
- ⑥平成31年 2月20日(水)／参加者 10名

(4) がんピアサポーターフォローアップ研修会／交流会

- ①平成30年12月2日(日) 琉大病院 大学院セミナー室／参加者 25名

令和元年度 沖縄県がんピアサポーター養成講座 プログラム

2019年10月19日(土) 1日目

開始	終了	所要 時間(分)	ピア 全体進行：野田真由美様	責任者：増田昌人
10:00	10:15	15	開講のあいさつ オリエンテーション	(増田昌人)
10:15	11:35	80	講義「ピアサポートとは」	(NPO法人支えあう会「α」副理事長 野田真由美様)
11:35	11:40	05	(休憩)	
11:40	12:30	50	講義「がんの基礎知識①」	(増田昌人)
12:30	13:20	50	(昼休憩)	
13:20	14:20	60	講義「緩和医療について」	(国立病院機構沖縄病院副院長 大湾勤子先生)
14:20	14:30	10	休憩	
14:30	15:30	60	講義「精神腫瘍学」	(沖縄県立精和病院心療内科副部長 川田聡先生)
15:30	15:40	10	休憩	
15:40	16:40	60	ワークショップ 体験を語る	(NPO法人支えあう会「α」副理事長 野田真由美様)
16:40	16:55	15	アンケート記入 終わりのあいさつ	(増田昌人)

2019年10月20日(日) 2日目

開始 時間	終了 時間	所要 時間(分)	ピア 全体進行：野田真由美様	責任者：増田昌人
9:55	10:05	10	始めのあいさつ オリエンテーション	(増田昌人)
10:05	11:00	55	講義「がんの基礎知識②」	(増田昌人)
11:00	11:10	10	休憩	
11:10	12:10	60	講義「より良いコミュニケーションのために」	(NPO法人支えあう会「α」副理事長 野田真由美様)
12:10	13:20	70	昼休憩	
13:20	15:00	100	ロールプレイの講義・実演 ロールプレイ① ワークショップ ロールプレイ①の振り返り	(NPO法人支えあう会「α」副理事長 野田真由美様)
15:00	15:10	10	休憩	
15:10	16:30	80	ロールプレイ② ワークショップ ロールプレイ②の振り返り	(NPO法人支えあう会「α」副理事長 野田真由美様)
16:30	16:50	20	アンケート記入 修了証授与・写真撮影 閉講のあいさつ	(増田昌人)

がんピアサポーター養成講座開催状況と参加人数

R1.10/31現在

年度	日時	講座名	参加者	うち離島参加者
平成23年度	H23.11/16 H23.11/20 H23.12/ 4	第1回 がんピアサポーター養成基礎講座	7	2 (宮古)
	H24.1/22 H24.1/29 H24.2/ 5	第2回 がんピアサポーター養成基礎講座	9	0
平成24年度	H24.10/28 H24.11/11 H24.11/23	がんピアサポート初級編(試行版)研修会	14	1 (宮古)
平成25年度	H25.10/13 H25.10/14	がんピアサポート研修会 ～これからピアサポートを始める人へ	14	6 (石垣)
平成26年度	開催なし			
平成27年度	開催なし			
平成28年度	H28. 9/10 H28.10/ 1 H28.10/29	平成28年度 がんピアサポーター養成講座	16	2 (石垣1・ 久米島1)
平成29年度	H29.7/22 H29.8/19 H29.9/ 9	平成29年度 がんピアサポーター養成講座 (宮古島市開催)	6	6 (宮古)
平成30年度	H31.2/2～3	平成30年度 がんピアサポーター養成講座	4	0
令和元年度	R1.10/19～20	令和元年度 がんピアサポーター養成講座	10	0
		合計	80	17

* 参加人数は全日程修了した人数を表記。「離島参加者」も「全体の参加者」に含まれる。

* H29年度の参加者は7名であるが、2度目の受講者は人数へ含んでいない。

がんピアサポーターフォローアップ研修会と参加人数

R元.7.31現在

年度	日時	講座名	参加者	うち離島参加者
平成24年度	H24.7.29	平成24年度 がんピアサポーターフォローアップ研修会	18	2 (宮古)
平成25年度	H25.9.1	平成25年度 がんピアサポーターフォローアップ研修会	32	1 (宮古)
平成26年度	H26.7.27	がんサロン研修会2014	23	6 (宮古3) (石垣3)
平成27年度	H27.10.10	平成27年度 がんピアサポーターフォローアップ研修会 「模擬相談演習」	16	6 (宮古2) (石垣4)
平成30年度	H30.12.2	平成30年度 がんピアサポーターフォローアップ研修会	19	4 (石垣)
令和元年度	R元.6.8	令和元年度 がんピアサポーターフォローアップ研修会 (宮古島市開催)	17	3 (石垣)
		合 計	125	22

* 令和元年度は相談員4名を含む。

運営側（地域統括）の現状／要望等

1.ピア・サポート事業の認知度の低さ

- ・ピア・サポートはがん患者、その家族やご遺族の不安軽減だけでなく、医療者の負担軽減にも繋がるはずだが、把握しているのは医療ソーシャルワーカーや緩和ケア認定看護師のみで、他の医療者から理解を得られることが少ない。背景として「外来や病棟で看護師が十分対応している」「がんについての知識も経験も十分」という自負だけでなく、医療者のピア・サポートに対する無関心があるのでは。ピア・サポーターの役割が違うということを伝えにくい、他のサポートが受け入れてもらいにくい現状がある。後日まとめて、医療者に対してのフィードバック（匿名での結果報告）をしてもいいのではないか。
- ・琉大病院でいえば、院内での対面・電話相談による相談室対応について、病棟での対応に比べ少ない（対面・電話2割、病棟8割）ことも認知度の低さが影響しているのではないか。認知度を上げるために、新聞掲載やホームページ、チラシやポスターだけでなく、院内では師長会での案内など、短時間でも構わないのでスタッフへの周知と協力要請を根気強くやっていくしかない。

2.ピア・サポーターの質の向上

- ・イベントなど、ピア・サポート対応後はその都度振り返りを行ってはいいるが、相談室対応も含め事案を基に定期的にミーティングを行うなどしピア・サポーター自身のケアにも努めたい。
- ・ピア・サポーターの人員確保も必要。

3.がんピア・サポーター養成講座修了生の活躍、提供の場が少ない

- ・他の医療機関においてもピア・サポートを理解していない、ピア・サポートを受け入れる体制が整っていないなど、ピア・サポーターの活動の場が限られている。

4.がんピア・サポーター養成講座参加者のリクルート

- ・各患者会ですでに活躍している方でも、普段の相談対応とピア・サポートは違うことから、特にベテランの方に受講してほしい。

5.小児・AYA 世代へのピア・サポート

6.小児・AYA 世代のご家族へのピア・サポート

7.希少がんへのピア・サポート

令和元年度がんピアサポート医療従事者向け研修会 及び検討会

日時：令和元年 10 月 23 日（水）

13 時 30 分～15 時 30 分

場所：山口県政資料館 第 1 会議室

- 13：30 開会
- 13：30 講義「ピアサポートについて、委託事業について」
講師 国立がん研究センター先端医療開発センター
精神腫瘍学開発分野長 小川 朝生 先生
- 13：50 講義「医療者に求めること、体制の構築」
講師 国立がん研究センターがん対策情報センター
センター長 若尾 文彦 先生
- 14：10 各拠点病院でのサロン運営状況・課題の共有
- 14：40 課題に対する提案、質疑応答
- 15：30 閉会



山口県内のがんサロン

山口大学医学部附属病院

YAMAGUCHI UNIVERSITY

YAMAGUCHI UNIVERSITY

山口大学医学部附属病院 がん患者サロン「れんげそう」

れんげそうの花言葉
「こころがやわらぐ」



■開催状況（H22.2～運営）

- 第1・第3金曜日 13時～14時30分
- 第2・第4水曜日 13時～14時30分

■参加状況

- 平成28年度 124名（新規48名）
- 平成29年度 106名（新規29名）
- 平成30年度 132名（新規32名）

■広報

- ホームページ、入院パンフレット、ポスター
- がん患者サロンパンフレット、当日院内放送

がんに関する話をされる方、聴取のお話をされる方、
お茶を飲まれる方、過ごし方は様々です。
(参加者の許可を得て掲載しています)



サロンの開催日以外は患者相談室として利用しています。

YAMAGUCHI UNIVERSITY

サロン開催日はドアを開放し、プライバシーが守られるよう
パーテーションを設置して、入りやすい雰囲気づくりにしています。



YAMAGUCHI UNIVERSITY

■がん患者サロンの運営状況

- がん相談員1名が対応
- * 第3金曜日はコーディネーター1名参加

■がん患者サロン勉強会開催

- 年に2～4回開催

■がん患者サロンの課題

- コーディネーター不足
- がん患者が参加しやすい開催日の対応
- 女性特有がん疾患患者の参加への対応
- 継続参加しているがん患者の高齢化

岩国医療センター

岩国医療センターがんサロン 「ほっとサロン虹」 のご紹介

2019年10月23日
がんピアサポート医療従事者向け研修会及び検討会

国立病院機構 岩国医療センター
上田佳奈

1.開催状況

開催日	テーマ	講師
4月19日	がんと上手に向き合うための心のケア ～心身共にケアしよう～	心療内科士
5月17日	運動の良さを再発見しよう ～みんなで楽しく運動しよう～	理学療法士
6月21日	化学療法の影響と上手に付き合っていく ～副作用を上手にコントロールしよう～	がん化学療法 看護認定看護師
7月19日	新しい自分に生まれ変わるための準備をしよう ～セルフイメージを大切にしよう～	緩和ケア 認定看護師
9月20日	栄養管理 ～がん治療の効果を高めるために～	管理栄養士
10月18日	癌治療後の心構え ～治療後の生活の質を高めるために～	緩和ケア科
11月15日	患者とのかかわり方コミュニケーションの方法を学ぼう ～患者の気持ちに寄り添うために～	がん看護 専門看護師
12月20日	がんとうまく付き合っていく方法 ～がんとうまく付き合っていくために～	理学療法 がんころ 作業療法
1月17日	がんとうまく付き合っていく方法 ～がんとうまく付き合っていくために～	がん看護 専門看護師
2月21日	緩和ケアセンター見学ツアー ～緩和ケアセンターの役割を学ぼう～	緩和ケアセンター 看護師
3月13日	がん治療と生活の両立 ～がん治療と生活の両立を学ぼう～	がんサロン 担当

毎月第3金曜日
(14:00-15:30)
開催している。

毎月テーマを決め、
前半は講師による
講義、後半は参加者
が語り合う時間と
している。

テーマは参加者の
希望を参考に、がん
サロン担当者が年間
計画をたてている。

2.運用状況



- 参加者人数
平均4.8名/回
- 参加者年齢
50代以上77.3%
- 当院受診している
患者、家族 96.1%
- 参加理由
講義内容に興味
あり 63.6%

3.がんサロンでの課題

- 参加人数が少ない
- 院内の職員の中にがんサロンを知らない者がいる
- 参加者の中でピアサポートの役割をする人が育たない



患者、家族だけでなく、職員に対しても
周知活動を実施中

周東総合病院

2019年10月23日(水) 令和元年度ピアサポート医療従事者向け研修会並びに検討会

周東総合病院における がんサロンの現状

周東総合病院 がん相談支援センター

開催状況

- ・開設日:平成21年4月
- ・名称:たんぼぼサロン
- ・体制:臨床心理士の資格予定の乳がん患者がボランティアで参加「ピアサポート研修未受講者」
- ・開催日:週3回 火・水・木
- ・場所:1階 がん相談支援センター横の個室
- ・時間:9時～16時
- ・内容:傾聴及びウィッグ相談や仲間づくりの場など
がん相談員は必要時面談
- ・状況:診察前後に立ち寄る患者が1日数名ボランティアの乳がん
つながりの患者の訪室あり
- ・利用者把握:サロンに利用者ノートを設置し、
利用者をカウント



その後

・サロン開設半年後
平成21年10月よりサロン担当が臨床心理士として当院に就職しが
サロンを毎日担当する

サロン担当が開設した乳がん患者会の例会を
当院のサロンを使って実施したり等活用し、利用者は少しずつ増え、1
日10件前後が利用していた。

平成25年5月末 サロン担当が退職 後継者不在となり、サロン利用者が
来室した際、その都度相談員が支援していた。
その後、ボランティアでサロンに協力させたいとがん患者(ピアサポート
研修未受講)の家族より問い合わせがあったが、体調等の問題で実施に
は至らなかった。

平成29年1月より サロンをフリースペースの場として外科・化学療法室
前(1階)の待合スペースに場所確保し変更

現在の運営状況 がんサロンはフリースペースの 場所提供のみ

- 外科外来
- 廊下を挟んで化学療法室
- 読書スペース
- 人数把握は現在できていない
- 患者同士の仲間づくり、交流の場
たんぼぼの会という当センターが企画する
患者会を毎月で平成20年7月より年
3回実施している。講和や茶話会、調理
実習、クリスマス会、院外活動などを実施
参加者は固定しつつあり
- 茶話会の様子



周東総合病院における がんサロンの課題

- ・ピアサポーターの確保が難しい
(院内ボランティアを募集しても集まらない状況)
- ・がんサロンにピアサポーターを配置できていない
- ・地域で唯一の総合病院にて、知り合い遭遇率が高く、他人に病気を知られたくないと思っている人が多いため、がんサロンより個別での仲間づくりや医療者への相談を希望する人が多い印象
- ・がんサロンでの講和を企画するべきか？島根の理想を追うべきか？
- ・ピアサポーター・がんサロンのPR不足

1 開催状況

- ・ がんサロン「とことこ」
毎月第3木曜日 14:00～15:00
- ・ がんサロン「とことこ女子会」
毎月第4金曜日 14:00～15:00

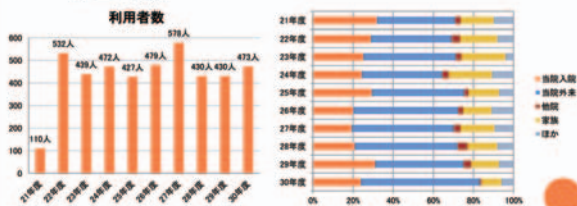
※『とことこ』は徳山中央病院のとことこ「ここにおいでよ」のこことです。

3 がんサロンでの課題

- <がんサロンの課題>
- ・ サロンが月に1回と少ない ⇒ 週に1回の開催を検討中
- <ピアサポート活動の課題>
- ・ 支援の情報提供の仕方
 - ・ がんサロンでのみ活動とするか(相談場所の確保)

きららサロン開催状況

- 平成21年より開始。今年で10周年。
- 毎週火・金曜日の10時30分から15時まで、ボランティアスタッフが対応（常時2～3名で対応）
- 年3回程度、院内職員が講師となり、患者・家族向けのミニ講座を開催



徳山中央病院

2 運営状況

- ・ ピアサポートのような役割りをしている人 : いる
- ・ 3名の常連の患者さんが必ず参加し、新規参加者の方と話をしてもらうようにお願いしている。

山口県立総合医療センター

きららサロン運営状況・支援体制

- ・ 月1回運営会議開催
(がん相談支援センター長、総務課長、師長、認定看護師
ボランティアスタッフ、がん相談支援センター)
- ・ 2か月に1回ボランティアスタッフ研修会
ボランティアスタッフ自身が対応に困った内容など
- ・ サロンのお茶・お菓子の購入
- ・ 図書購入
- ・ きららサロンニュースの発行(年3回程度)



きららサロンでの課題

- ボランティアスタッフの自主性をどこまで許容するか
→病院の管理体制の中でどこまで主体性をもってやってもらうか
- ボランティアスタッフの新規スタッフの獲得
- ボランティアスタッフへの継続的な研修

済生会下関総合病院

がんサロン ふくふくサロン

済生会下関総合病院
がん支援センター 前川 優子

ふくふくサロンの開催状況

当院のがんサロンは、ふくふくサロンと言います。
“ふくふく”とは、幸せの“福”と山口の名産“ふく（ふぐ）”でふくふくサロンとした

開催日時：毎月 第2水曜日
時間：13:00受付～15:00
場所：2階会議室
費用：無料（駐車料金含む）
対象：がん患者（通院、入院、他院問わず）
家族、その他支援者
イベント：年2回講師を呼んで講演会



サバイバーの夫婦が、みんなを元気づけたいと、日本舞踊を踊って下さいました

平成30年度がんサロン参加人数



運営状況

9月サロンのテーマ (治療してきた苦労話、どう乗り越えたか)

- ▶ 〈患者の意見〉
- ▶ ・がんの告知をされた時は辛かったが、能天気に生きるときめたら、楽になった
- ▶ ・ステージIVと言われ、死刑判決されパニックになった。しかし、つらいときはある
- ▶ ・が、日々悲しみの中にあることはないことが、みんなの話を聞いてわかった
- ▶ ・一日をどう生きるか考える。笑って、前向きに人を喜ばす
- ▶ ・前向きに笑って過ごすことが大切と思った。家族仲良く暮らす
- ▶ ・みんな辛い時を乗り越えて、頑張っている、私も治療を頑張る
- ▶ ・がん体験を聞くと前向きになる

ふくふくサロンの課題

- ▶ 自主的に会が進行できるようにピアサポーターの育成
- ▶ 患者の治療過程によって、どのように働きかけていいか悩む

長門総合病院

長門総合病院

地域医療福祉連携室

MSW 田村和彦

当院の体制

- ▶ ピアサポーター（国の研修プログラムに準拠した研修の修了者）の有無なし
- ▶ ピアサポーターの在任体制の有無なし
- ▶ 活動
 - ・あいの会と協力して活動。
 - ・毎年当院で開催するJAフェアにおいて地域住民を対象にがんについての啓発活動を行っている。
- ▶ 課題
 - あいの会の活動の協力は外科病棟の看護師、外来化学療法室の看護師が対応。
 - 地域医療福祉連携室には担当がいいため、活動内容等も把握できていなかった。

当院のがんサロンについて「あいの会」

平成15年3月に山口県北浦の紺碧の海に負けない深さで、女性のがん患者同士が愛情や繋がりを持って生きていきたいと結成した女性がん患者会。

1. 自分のために、大切な家族のために、がんという病気について正しい知識を持ち、がんに対する偏見をなくし、理解を深める。
2. 自分自身が定期検診を継続して受け、異常の早期発見に努める。
3. 唯一自分で見つけることができる乳がんの自己検診の普及を図る。
4. 「抗がん剤治療」をされている女性のためのウィッグの貸出し。等々の活動を行っている。



- ▶ 2か月に1回（偶数月の第3土曜日の午後2時～）の勉強会への参加 医師・専門職による講演の協力
- ▶ 毎年12月に当院小児科外来前のロビーでクリスマスコンサートの開催協力



啓発活動

- ▶ 当院緩和ケアチームと協力し毎年当院で行われるJAフェアにおいて地域住民を対象にがんについての啓発活動を行っている。

2014 緩和ケア普及啓発シンポジウム
山口県立大学理事長：江里健輔先生
当院名誉院長：藤井康宏先生
すえなが内科在宅診療所：末永和之先生
訪問看護おかふじ：岡藤美智子訪問看護師
「これからの在宅医療について
～がんといわれたその日から～」

2015 緩和ケア特別講演
木山裕策さん
「がん向き合って～叶えた夢home～」

2016 緩和ケア特別講演
天野内科胃腸科医院 院長 天野秀雄先生
「長門市の在宅医療と看取りの現状」
大分県勝光寺住職 南えしろう先生
「楽しく老いる、老いから学ぶ
～自分らしく生きるために～」

2017 緩和ケア特別講演
桐生のほるさん
「健康で楽しく生きる
～話そう・歌おう・声を出そう!～」

2018 緩和ケア特別講演
山中光茂先生
「当たり前前の幸せを最期の瞬間まで・・・」

2019 緩和ケア特別講演
梅月博文先生
伝えたい「ありがとう」は週（めく）るー
がんと闘いつづけてー

都志見病院

患者サロン だいたいのご案内

がんと伝えられた瞬間から患者さんとその御家族は、心の悩みや今後のことについての不安を抱えておられるのではないかと察します。同じような苦悩を抱えている方が同じ場で過ごし、情報の交換等を通してお互いの励ましになることを目的に、患者サロンを開催いたします。がん患者さんやご家族の皆さまが、集まれる場としてご利用いただけたらと思いますので、参加してみませんか。

**開催日：毎月2回
第1火曜日・第3木曜日
14:00～16:00**

場所：東館2階 待合ロビー

対象者：がん患者さんとご家族

**問合せ：地域連携室
平日8:30～17:00 TEL0838-22-2878
FAX0838-22-2886**

都志見病院 地域連携室

抱えている方が同じ場で過ごし、情報の交換等を通してお互いの励ましになることを目的に、患者サロンを開催いたします。がん患者さんやご家族の皆さまが、集まれる場としてご利用いただけたらと思いますので、参加してみませんか。

開催日：毎月第1火曜日・第3木曜日 14:00～16:00

開催場所：東館2階 待合ロビー

対象者：がん患者さんとご家族

平成33年度開催予定日	内容	学習会演題 講師
第1回 4月18日(水)	学習会&交流会	気功 ボランティアスタッフ 三好さん
第2回 5月7日(火)	学習会&交流会	緩和ケアについて 池部緩和ケア専従看護師
第3回 5月16日(水)	交流会	
第4回 6月		出前講座に参加
第5回 6月20日(水)	学習会&交流会	熱中症の予防と対策 ヤクルト管理栄養士
第6回 7月18日(水)	学習会&交流会	福祉用具について ホームケア
第7回 7月29日(月)	学習会&交流会	料理教室 免疫力アップ 当院管理栄養士
第8回 8月6日(火)	交流会	氷枕カバー作り
第9回 8月24日(日)		24時間TVチャレンジに参加
第10回 9月19日(木)	学習会&交流会	緩和ケアに用いる薬剤について 当院薬剤師
第11回 10月		リレーフォーライフジャパンに参加
第12回 10月12日(土)	交流会	長門あいの会との交流会
第13回 11月9日(土)		ふるさと祭り伝報活動
第14回 11月21日(木)	学習会&交流会	医療費について 当院社会福祉士
第15回 12月3日(火)	交流会	
第16回 12月19日(水)	交流会	レクレーション
第17回 1月16日(火)	交流会	
第18回 2月4日(火)	学習会&交流会	検診について 当院健診部
第19回 2月20日(水)	交流会	次年度の計画 立案
第20回 3月19日(水)	交流会	1年間のまとめ意見交換会



今後の課題

- 🍷 新規参加者の確保
- 🍷 ボランティアスタッフの継続した教育

都志見新聞や出前講座でサロンの活動を周知していますが、新規の方の参加がなかなかない状況です。メンバーが固定化されているため結束力は高いのですが、少々マンネリ化しているのも否めないです。

また、ピアサポートの研修など立ち上げの時に勉強したものの継続した研修ができていません。スタッフのレベル向上のためにも改めて学ぶ機会が必要と考えています。



山口宇部医療センター

R元年10月23日(水)

「サロンあさひ」の現状



独立行政法人国立病院機構
山口宇部医療センター
草野 雅子

開催状況

開催日

第2、第4の木曜日

14時から15時

がんサロン運営状況

- ◆ティータイム(茶話会)
- ◆気分転換の簡単ストレッチ
- ◆治療中の食事の美味しい摂り方の説明(栄養士)と試食会(年4回)
- ◆お笑いや抗がん剤DVDの視聴
- ◆質問コーナー(放射線医師, 薬剤師, 検査技師, MSW他)
- ◆お花見(お抹茶会) 等

がんサロンの課題

- ◆入院中に参加されても、退院後自宅が遠方で外来通院中での参加が難しい。
- ◆当院は肺がん、悪性胸膜中皮腫の患者が殆どで予後が厳しく、リピーターになりにくい。



がんのピア・サポートに係る医療従事者との意見交換会 開催要領

1 開催目的

第3次県がん対策推進計画等において、がん患者の不安や悩みの軽減を図るため、がん診療連携拠点病院等におけるピア・サポートの普及に取り組むこととされていることを踏まえ、今後のピア・サポーターの養成や活動の場の確保等、本県におけるピア・サポート普及の参考とするため、拠点病院等において、がん治療やがんサロンの運営、相談支援等に従事する方等を対象に、意見交換会を開催するもの。

2 開催日時・会場等

- (1) 日 時：令和2年2月6日（木）13：30～15：30
- (2) 会 場：岩手医科大学 創立60周年記念館 研修室
(盛岡市中央通一丁目2番1号 TEL：019-613-6111)

3 主催・共催

- (1) 主 催：岩手県、日本サイコオンコロジー学会
- (2) 共 催：岩手県がん診療連携協議会相談支援部会

4 対象者

がん診療連携拠点病院等において、

- ・がん治療に携わる医師・看護師
- ・ピア・サポートに関心のある医師・看護師
- ・がんサロンの運営や相談支援に従事する方 など

5 内 容

時 刻	内 容
13：30	開 会
13：35～14：25	事例報告 ・「ピア・サポートについて」 国立がん研究センター東病院 小 川 朝 生 先生 ・「ピア・サポートの現状と課題 ～愛媛での活動から～」 特定非営利活動法人愛媛がんサポートおれんじの会 松 本 陽 子 理事長
14：25～14：30	休憩（レイアウト転換）
14：30～15：30	グループワークによる意見交換 ・各病院におけるがんサロンの取組状況 ・ピア・サポートの導入状況及びその課題 (※ 15：15 頃に各班から発表、15：25 頃講評)
15：30	閉 会

委員会名簿

(1) 改訂委員会

◎は委員長（以下 50 音順）

氏名	所属・役職
◎小川 朝生	国立がん研究センター先端医療開発センター精神腫瘍学開発分野 分野長
天野 慎介	一般社団法人グループ・ネクサス・ジャパン 理事長
石川 睦弓	静岡県立静岡がんセンター研究所 患者家族支援研究部 部長
佐々木 治一郎	北里大学病院集学的がん診療センター センター長
松本 陽子	NPO 法人愛媛がんサポートおれんじの会 理事長
若尾 文彦	国立がん研究センターがん対策情報センター センター長

第1回委員会

日時：令和元年7月12日（金）14：00～16：00

議事：1) 厚生労働省あいさつ

2) 本年度の事業計画

3) テキスト改訂作業について

4) 都道府県への支援希望調査の結果報告と支援先・支援内容の検討、実施マニュアルの作成について

第2回委員会

日時：令和2年2月4日（火）10：00～12：00

議事：1) あいさつ

2) 報告

①三重県ピアサポーター養成研修会 準備状況報告

②がんサポートグループ企画の手引き 改訂作業報告

3) 検討

①意見交換会概要の報告、まとめ方について

②事業報告書について

第3回委員会

日時：令和2年2月21日（金）10：00～12：00

議事：1) あいさつ

2) 報告

①三重県ピアサポーター養成研修会 開催報告

②「ピアサポーター養成テキスト」、スライド、開催マニュアル 検討状況

③がんサポートグループ企画の手引き 検討状況報告

3) 検討

①事業報告書について

氏名	所属・役職
●秋月 伸哉	がん・感染症センター 東京都立駒込病院 精神腫瘍科・メンタルクリニック 部長
倉田 明子	広島大学病院 精神科 診療講師
齋藤 円	市立ひらかた病院 精神科 副部長
桜井 なおみ	一般社団法人 CSR プロジェクト 代表理事
野田 真由美	NPO 法人 支えあう会 「α」 副理事長
吉田 稔	日本赤十字社熊本健康管理センター 副所長

第1回 WG 委員会

日時：令和元年9月21日（土）14：00～16：00

議事：1) あいさつ

2) 今年度の事業方針

3) ピアサポーター養成テキスト、スライドの改訂の検討

4) 三重県ピアサポーター養成研修会に向けた検討

4) 次回までにやるべき事、今後の予定の確認

第2回 WG 委員会

日時：令和2年1月24日（金）19：00～20：00

議事：1) 三重県 ピアサポーター養成研修会に向けての検討

2) 研修会開催マニュアルの検討

3) 今後の予定の確認

第3回 WG 委員会

日時：令和2年3月5日（木）19：00～20：00

議事：1) 研修会開催マニュアルの検討

2) 「ピアサポーター養成テキスト」 テキスト改訂の検討

3) 今後の予定の確認

三重県 ピアサポーター養成研修会

日時：令和2年2月8日（土）（事前打合せ 18：00～20：00）

令和2年2月9日（日）、16日（日）（研修会 9：30～16：30、反省会 16：30～18：00）

氏名	所属・役職
●平井 啓	大阪大学大学院人間科学研究科 准教授
市原 香織	京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻 がん看護専門看護師
松向寺 真彩子	市立豊中病院 臨床心理士
古谷 浩	精巣腫瘍患者友の会 J-TAG 共同代表
山田 麻記子	東京医科歯科大学医学部附属病院 がん相談支援センター 医療ソーシャルワーカー

第1回 WG 委員会

日時：令和元年 8 月 14 日（水）13：00～18：00

- 議事：1) 事業内容の確認
2) ワーキングの方向性の検討
3) 今後の予定の確認

第2回 WG 委員会

日時：令和元年 10 月 19 日（土）13：00～18：00

- 議事：1) 事業内容の確認
2) 「ピアサポーター養成テキスト」との整合性の確認
3) 改訂作業
4) 今後の予定の確認

第3回 WG 委員会

日時：令和 2 年 3 月 16 日（月）15：00～19：00

- 議事：1) 改訂作業の確認
2) 次年度に向けた方向性の確認

令和元年度 厚生労働省委託事業

がん総合相談に携わる者に対する研修事業

〈改訂委員会〉

- [委員長] 小川 朝生 国立がん研究センター先端医療開発センター精神腫瘍学開発分野 分野長
- [委員] 佐々木治一郎 北里大学病院集学的がん診療センター センター長
- [委員] 若尾 文彦 国立がん研究センターがん対策情報センター センター長
- [委員] 石川 睦弓 静岡県立静岡がんセンター研究所 患者家族支援研究部 部長
- [委員] 天野 慎介 一般社団法人グループ・ネクサス・ジャパン 理事長
- [委員] 松本 陽子 NPO 法人愛媛がんサポートおれんじの会 理事長

〈ピア養成研修ワーキンググループ〉

- [グループ長] 秋月 伸哉 がん・感染症センター 東京都立駒込病院 精神腫瘍科・メンタルクリニック 部長
- [グループ員] 桜井なおみ 一般社団法人 CSR プロジェクト 代表理事
- [グループ員] 倉田 明子 広島大学病院 精神科 診療講師
- [グループ員] 齋藤 円 市立ひらかた病院 精神科 副部長
- [グループ員] 野田真由美 NPO 法人支えあう会「α」 副理事長
- [グループ員] 吉田 稔 日本赤十字社熊本健康管理センター 副所長

〈短期サポートグループワーキンググループ〉

- [グループ長] 平井 啓 大阪大学大学院人間科学研究科 准教授
- [グループ員] 松向寺真彩子 市立豊中病院 臨床心理士
- [グループ員] 市原 香織 京都大学大学院人間科学系専攻 博士後期課程/がん看護専門看護師
- [グループ員] 山田麻記子 東京医科歯科大学医学部附属病院 医療ソーシャルワーカー
- [グループ員] 古谷 浩 精巣腫瘍患者の会 J-TAG 共同代表

令和元年度 厚生労働省委託事業

がん総合相談に携わる者に対する研修事業 事業報告書

[発行] 令和2年3月25日

[発行元] 一般社団法人日本サイコオンコロジー学会

がん総合相談研究事業 担当事務局

〒277-8577 千葉県柏市柏の葉6-5-1

国立研究開発法人 国立がん研究センター 先端医療開発センター 精神腫瘍学開発分野内

TEL : 04-7134-6986 FAX : 04-7134-7026

[製作者] 株式会社 青海社 [DTP/印刷] 株式会社 真興社

